

第2次 みなかみ町食育推進計画

～食でつなごうみんなの笑顔～



—食育とは—

- 生きるうえでの基本であって、「知育」「徳育」「体育」の基礎となるべきもの
- 様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること

～食育基本法より～



平成28年3月
みなかみ町

はじめに

食べることは生命の源です。健全な食生活を日々実践し、食事を楽しむことは人生を豊かにします。

ところが、近年はライフスタイルや価値観の多様化が進み、「食」に関する情報が氾濫し正しい選択が困難な状況になっています。

みなかみ町では、このような問題の解決をめざし平成23年に食育推進計画（第1次）を策定し、関係諸機関と連携しながら「食」に関する課題の改善を進めて参りましたが、計画期間の5年を経て、更に強力に問題解決にあたるため、食育推進計画を改訂することといたしました。

第2次食育計画の策定にあたりましては、引き続き基本理念として『「みなかみ町」の豊かな恵みに感謝し、「食」を通じ、健康な生活の実現を目指す』を掲げ、第1次計画の取り組みを評価する中で、「早寝早起き朝ごはん」「家庭における共食（きょうしょく）」「地産地消」などの5つの重点課題を設定し、PDCAサイクルを1年間とすることで、食に関する正しい知識と技術の普及を進め、健全な食生活の定着を図ることといたしました。

今後も、地域、行政、教育が一体となって食育計画の推進に取り組んで参りますので、引き続き町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

終わりに、本計画の策定にご尽力いただきましたみなかみ町食育推進検討委員会委員の皆様及び検討部会員の皆様に心から感謝申し上げます。

平成28年3月

みなかみ町長

岸 良昌



みなかみ町食育推進計画 目次

第1章	計画の策定にあたって	1
1	計画の趣旨	
2	計画の位置づけ	
3	計画の期間	
4	推進体制	
第2章	食を取り巻く現状と課題	3
1	背景となる環境の変化	
2	健康の状況	
3	食生活の状況	
4	食育に対する意識と実践の現状	
5	地産地消について	
6	行事食・郷土料理について	
第3章	基本方針	11
第4章	ライフステージごとの目標	13
	・ 妊娠期（胎児期）	
	・ 乳幼児期	
	・ 学齢・思春期	
	・ 青年・壮年期	
	・ 高年期	
第5章	食育推進にあたっての目標値	23
	参考資料	28

第1章 計画の策定にあたって

1 計画の趣旨

「食」は、人が生きていく上で欠かす事のできない大切なものであり、正しい食生活を実現する事は、心と体を健やかにするための基礎となる重要なものです。

みなかみ町では、「食」に関する様々な問題を解決するべく、ライフステージ毎の目標を掲げた食育計画を作成し、第1次として5年間にわたり推進して参りましたが、偏食や過食による肥満や生活習慣病、朝食欠食や不規則な食生活、生産者の顔の見えない流通など、第1次計画で取り上げた課題は課題のまま残されているのが現状です。

平成18年5月に第1次が策定された群馬県食育推進計画「ぐんま食育こころプラン」は、平成28年度からは第3次食育推進計画として進められます。

「なぜ孤食が進んでしまうのか」「なぜ朝食欠食が増えているのか」「なぜ行事食や伝統食が失われていくのか」、これらは食以外の生活環境も大きく影響していることが考えられます。こうした状況を踏まえた上で県計画や住民アンケートを参考に第1次計画を検証し、諸問題の解決を図るための指針として、「第2次みなかみ町食育推進計画」を策定するものです。

2 計画の位置づけ

本計画は、食育基本法の目的・基本理念を踏まえ、同法18条第1項に基づく市町村食育推進計画として位置づけます。また、「群馬県食育推進計画」「第1次みなかみ町総合計画(後期基本計画)」等、その他関係する計画と整合・調整を図るものとします。

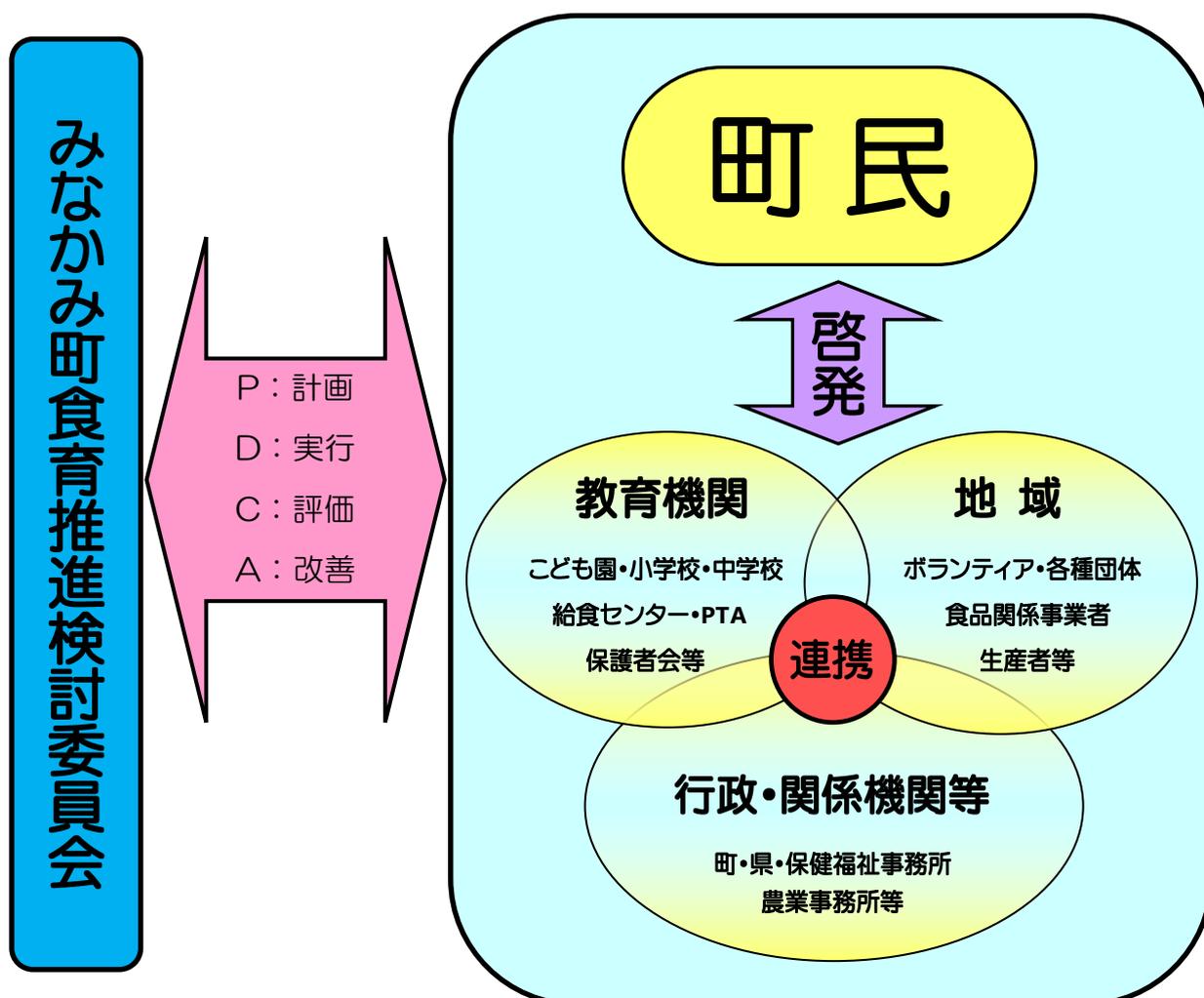
3 計画の期間

平成28年度から平成32年度の5年間とします。ただし、検証の期間については1年間として、計画期間中に状況変化等生じた場合には、必要な見直しを実施するものとします。

4 推進体制

第1次計画に引き続き、町民一人ひとりが食に興味・関心を持てるように、教育機関・地域・行政等の関係機関が連携して取り組む事が重要です。また、より効率的・効果的に計画を推進するため、PDCAのサイクルは1年単位とし、食育の啓発・推進・定着を図っていきます。

＜食育推進の体制の連携図＞



第2章 食を取り巻く現状と課題

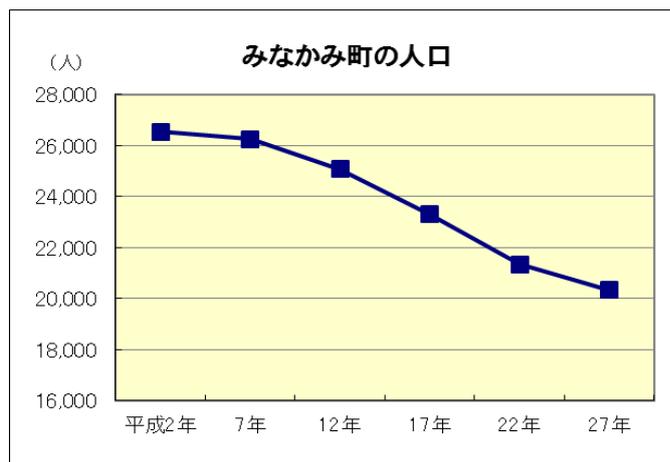
1 背景となる環境の変化

平成17年の合併当時、15歳未満の年少人口は3,011人で人口に占める割合は約13%、15歳から64歳までの生産年齢人口は13,583人で約58%、65歳以上の老年人口は6,716人で約29%という構成だったが、平成27年にはそれぞれ1,849人(9%)、11,254人(55%)、7,231人(36%)となっており、少子高齢化はますます深刻化している。また、核家族化や単身世帯の増加、共働きなども進む傾向にあり、家族それぞれが多忙な状況から、各家庭の努力で食育を推進するのは困難な状況になってきていると考えられる。

(1) みなかみ町の人口

(人)

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口	26,540	26,252	25,079	23,310	21,345	20,496



みなかみ町の人口は、年々減少している。平成7年と平成27年を比較すると5,756人減少しており、平成2年から平成22年の差(5,174人)より約580人増加し、減少率は19.5%から21.9%となっている。

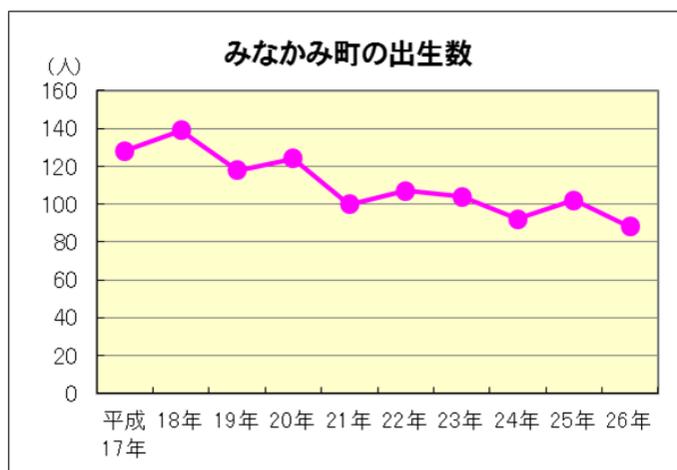
※平成17年以前の人口は旧月夜野町・水上町・新治村の3町村の人口をあわせたものである。

(平成2年～平成22年は国勢調査、平成27年は住民基本台帳より)

(2) 出生数

(人)

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
人口	128	139	118	124	100	107	104	92	102	88

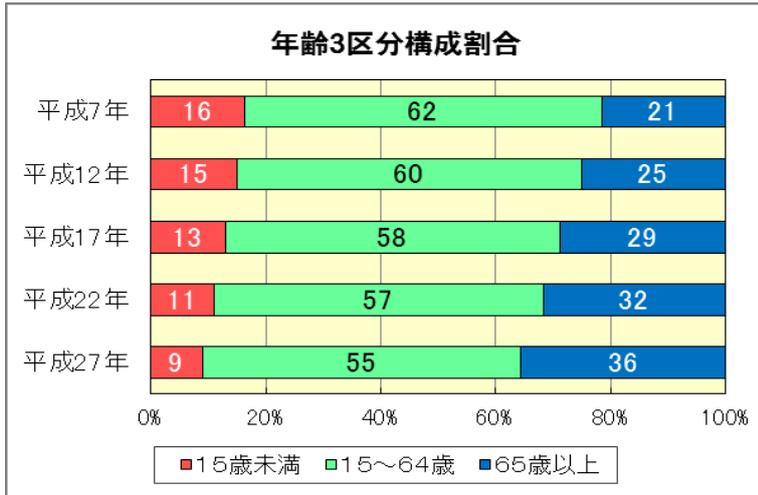


人口減少と同様に出生数も減少している。平成24年に初めて100人を割り込み、25年に102人に回復したが、26年は88人となり、平成17年の128人に比較して40人の減少となっている。

(群馬県人口動態統計より)

(3) 年齢3区分別の人口 (人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
15歳未満	4,275	3,766	3,011	2,346	1,849
15～64歳	16,342	15,020	13,583	12,224	11,254
65歳以上	5,635	6,293	6,716	6,746	7,231



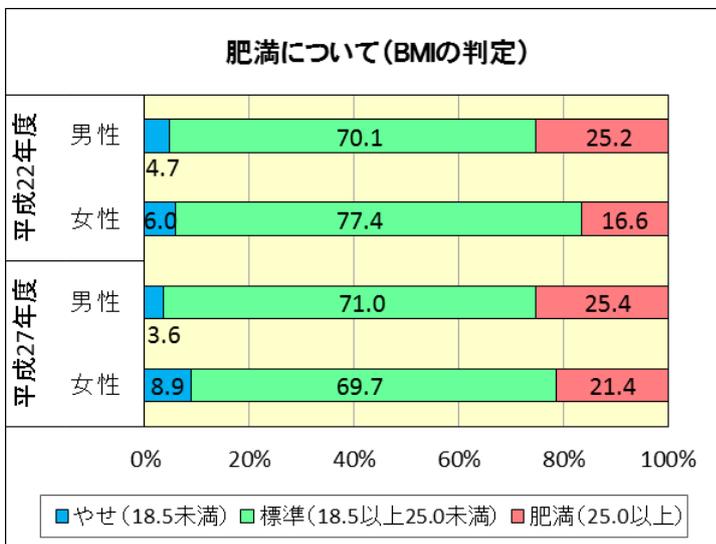
平成7年から平成27年の20年間で、人口は5,921人減少しているが65歳以上の老年人口は1,596人増加している。逆に64歳以下の人口は7,514人も減少しており、少子高齢化が顕著である。

(平成7年～平成22年は国勢調査、平成27年は住民基本台帳より)

2 健康の状況

特定健診の結果では、男性の4人に1人、女性は5人に1人が肥満であった。肥満は、食習慣や栄養バランスの乱れ、運動不足等が大きく関係しており、生活習慣病の温床でもある。肥満を予防するために、食に関する正しい知識や、望ましい食習慣を身につけていくことが大切である。

(1) 大人の肥満について



平成27年度の特定健診における肥満者の割合は、平成22年度に比較し、男性は0.2ポイントの微増、女性は4.8ポイントの増加がみられ、肥満傾向にある。しかし、女性においては、やせの割合が2.9ポイント増加、標準の割合が7.7ポイント減少しており、両極化の傾向も出ている。

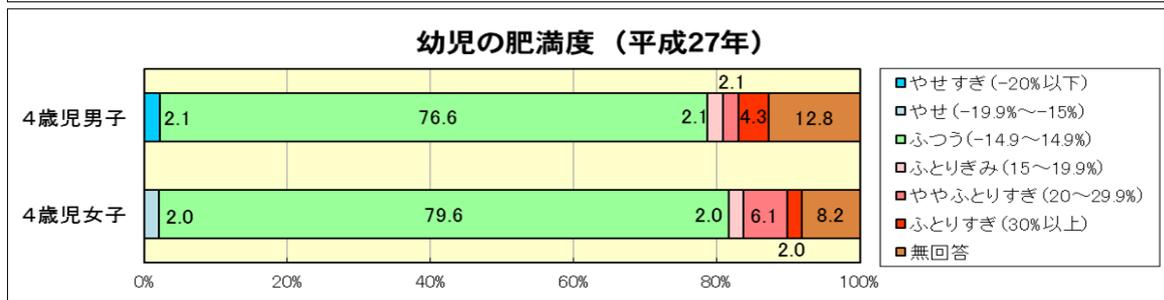
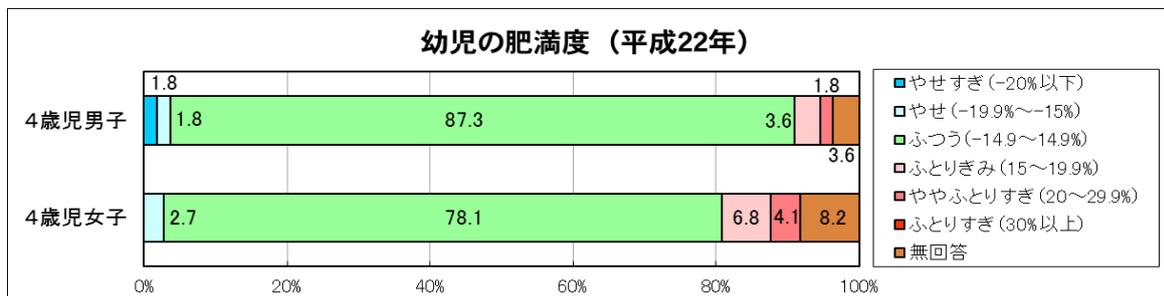
(平成22年度及び平成27年度みなかみ町特定健診結果より)

<参考>平成22年度群馬県民健康・栄養調査における肥満者(BMI25以上)の割合

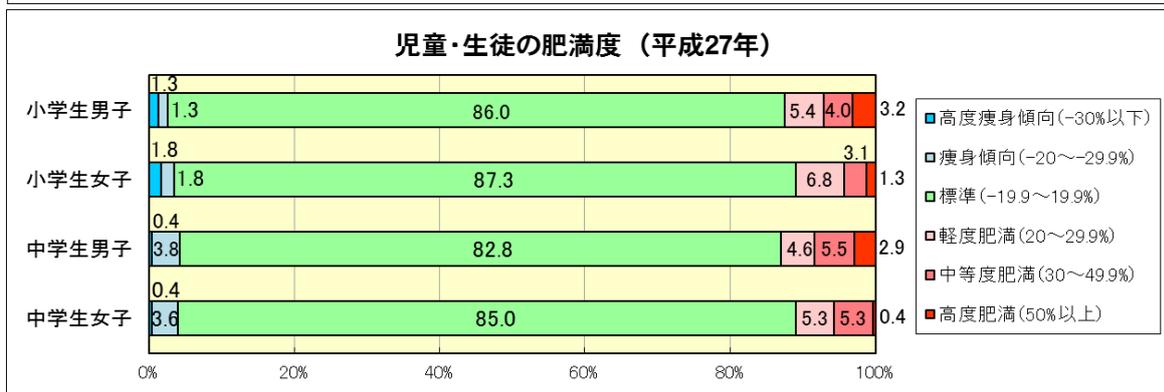
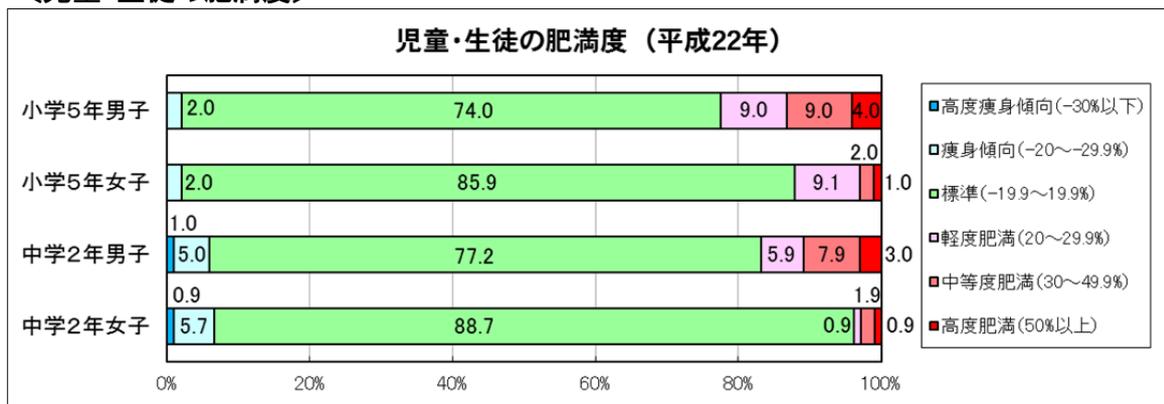
- ・男性(20～69歳)の肥満者:29.5%
- ・女性(40～69歳)の肥満者:19.4%

(2) 子どもの肥満について

<幼児の肥満度>



<児童・生徒の肥満度>



平成27年度の調査では、4歳児における、ふとりぎみ～ふとりすぎの児は男女とも10%近くいた。小中学生においては、男子にやや肥満が多い傾向があり、小学生男子は12.6%、中学生男子は13.0%が肥満である。これは、全国及び群馬県の平均に比べても多い傾向である。

※児童・生徒については、平成22年は小学5年生、中学2年生を対象に調査した。平成27年は、対象児童生徒が減少傾向にあることから、学年による格差を解消するため、全学年を対象に調査した。

(平成22年及び平成27年食に関するアンケート調査、

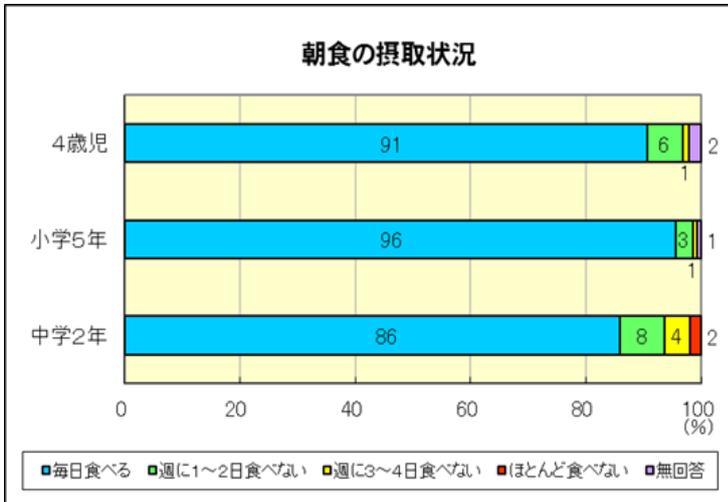
平成27年度健康診断結果[利根郡小中学校教育研究会養護教諭部会]より)

3 食生活の状況

食生活をめぐる環境の変化等に伴い、みなかみ町においても食習慣の乱れがみられ、朝食の欠食、栄養の偏り、中でも子どもにおいては、野菜嫌い等による野菜の摂取不足などが問題になっている。

子どもがひとりで食事をする「孤食」の問題や、食事が「あまり楽しくない」子どももあり、「何を」「どれだけ」食べるかだけでなく、「誰と」「いつ」「どこで」「どのように」食べるかという、食事の総合的な「質」を考えて食べる必要がある。そのためには、食を家族で楽しみ、子どもが食に対し関心を持てるような環境を各家庭で心がけることが望ましい。

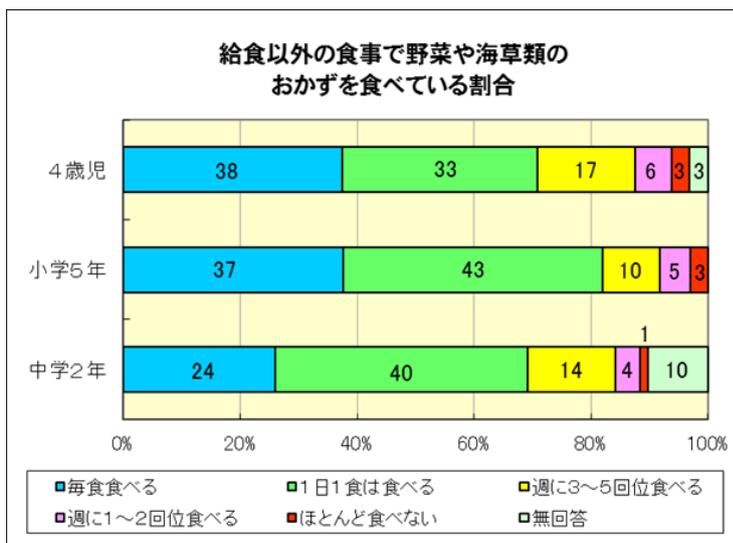
(1) 朝食の摂取状況



平成22年食に関するアンケート調査（以下、「前回調査」とする）と比較して、朝食の摂取状況に大きな変化はないが、9割の子どもが毎日朝食を食べており、数年前から実施している「早寝早起き朝ごはん」運動が定着してきていることがうかがわれる。ただ、1割の子どもは朝食を食べない事もあり、今後も朝ごはんを習慣づける取り組みを推進していく必要がある。

（平成27年食に関するアンケートより）

(2) 野菜の摂取状況

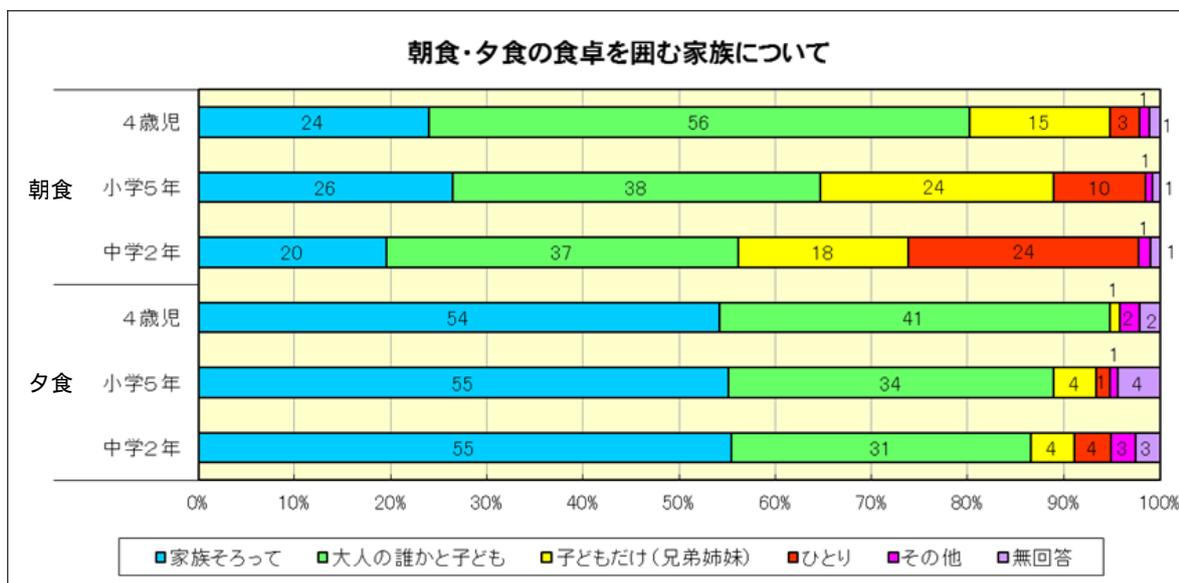


給食以外の食事で野菜や海草類のおかずを毎食食べる割合は、前回調査と比較し、4歳児と小学5年生においては大きな変化はないが、中学2年生では平成22年の46%から今回の24%へとほぼ半減している。

中学生においては、野菜の大切さを理解し、栄養バランス良く食べるためには何が必要か、正しく選択できる力を身につけるための取り組みが、より一層必要であると思われる。

（平成27年食に関するアンケートより）

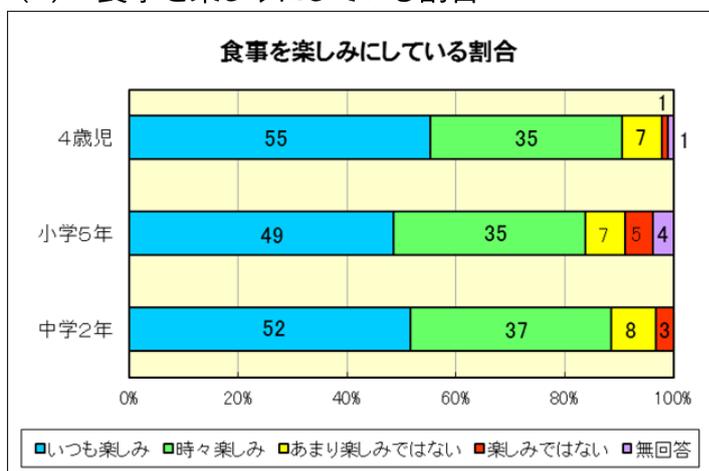
(3) 朝食・夕食の食卓を囲む家族について



夕食ではかろうじて5割を超えているが、家族そろって食べる割合が前回調査と比較し、全体的に減少している。中学2年生では大人の誰かと食べる割合が朝食・夕食とも増えており、配慮は感じられるが、逆に朝食をひとりで食べる割合が増加し、朝食の孤食化がうかがわれる。

(平成27年食に関するアンケートより)

(4) 食事を楽しみにしている割合



「食事を楽しみにしている」と回答したのは、4歳児55%、小学5年生49%、中学2年生52%であり、約半数の子どもはいつも楽しみにしているとの回答であった。

「あまり楽しみでない」と回答した4歳児は前回調査では1%で、今回は7%に増加した。逆に中学生では前回調査12%から8%に減少した。

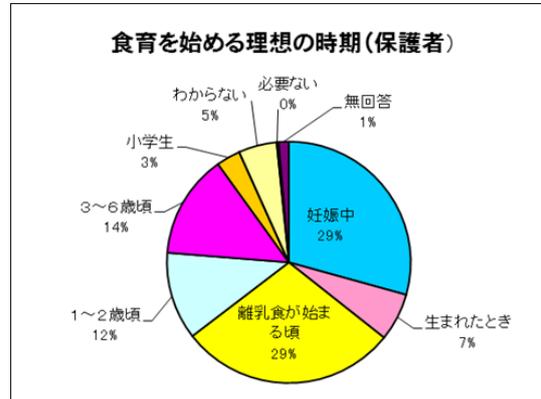
(平成27年食に関するアンケートより)

4 食育に対する意識と実践の現状

「食育」の関心度は、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」をあわせて81%となっており、前回調査とほぼ同様である。引き続き食育の必要性について啓発を進め、町民の関心度を高めると共に、早い時期から食育推進を図っていく。

(1) 「食育」の関心度(保護者)

(2) 食育を始める理想の時期(保護者)

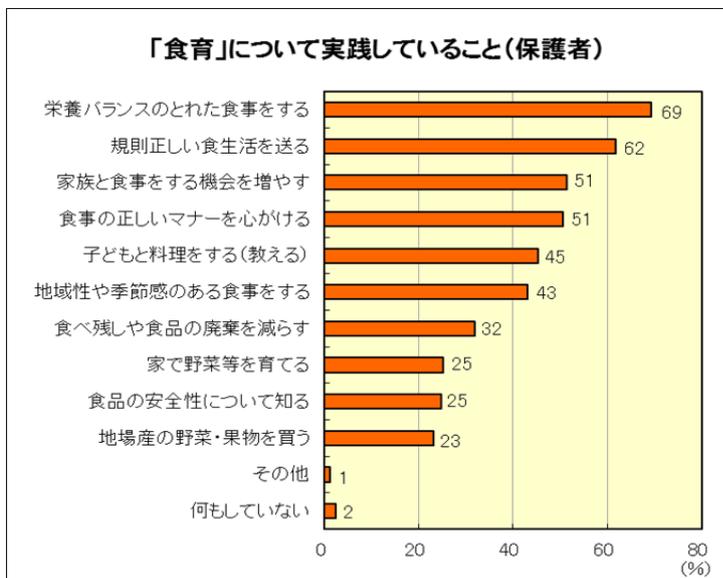


食育の関心度については、前回調査とほぼ同様であるが、「関心がある」が4ポイント減、「どちらかと言えば関心がある」が5ポイント増となっており、関心度は浅くなっていることが考えられる。

食育を始める理想の時期については、妊娠中と離乳食期の割合が多くなっているが、子どもと同様に、子どもを育む母体の健康という観点も必要であると思われる。

(平成27年食に関するアンケートより)

(3) 「食育」について家庭で実践していること(保護者)



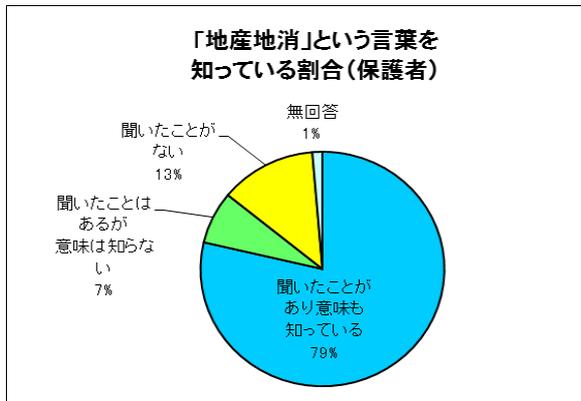
栄養バランスや規則正しい食生活、共食やマナーなど、「気をつける」「心がける」部分では過半数以上の保護者が実践しているが、「野菜を育てる」「地場産品の購入」「安全性について知る」など労力や財力、知識などが必要な部分については実践している割合は低い。

(平成27年食に関するアンケートより)

5 地産地消について

食の安全・安心に対する関心の高まりとともに、生産者の顔が見える地場産品を地元で消費する「地産地消」が注目されている。「地産地消」は、安全・安心な地元産農産物を消費者に提供するだけでなく、地域産業の振興や生産環境・自然環境の保全、食を通じた地域文化継承へつながると考えられる。みなかみ町の豊かな自然でつくられる地元産農産物等をより多くの人に周知し、消費につなげていくことが必要である。

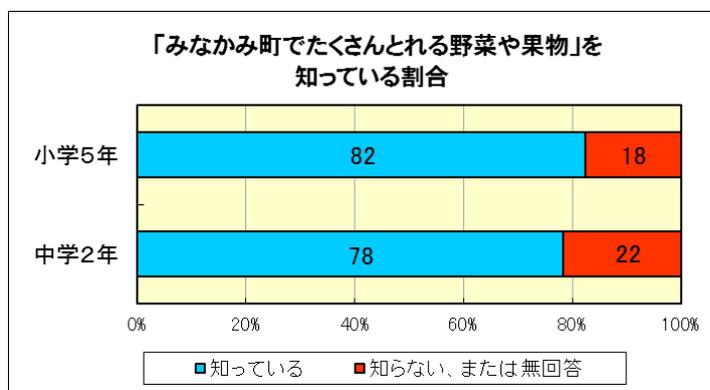
(1) 「地産地消」の認知度(保護者)



「地産地消」について、「聞いた事があり意味も知っている」割合は79%と、前回調査に比較して9ポイント増加した。「聞いた事はあるが意味まで知らない」割合まで含めれば6ポイントの増加となり、「地産地消」の認知度は上がっている。

(平成27年食に関するアンケートより)

(2) みなかみ町でたくさんとれる野菜や果物を知っている割合



「みなかみ町でたくさんとれる野菜や果物を知っている」のは、小学5年生82%(前回比較9ポイント増)、中学2年生78%(同3ポイント増)で、認知度は上がっている。

(平成27年食に関するアンケートより)

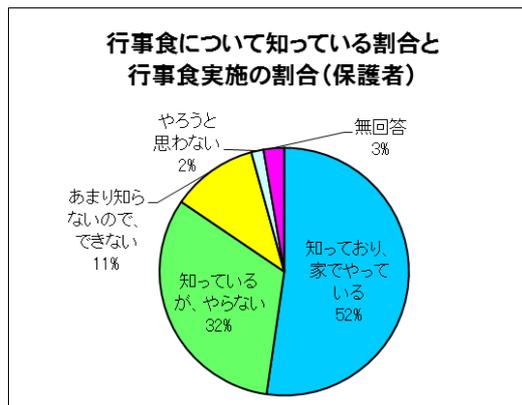
6 行事食・郷土料理について

近年、家族構成や生活様式の欧米化等により食生活が大きく変化していく中で、行事食や郷土料理への興味・関心が薄れつつあり、みなかみ町でも「行事食を家で実践している」割合は52%と前回調査から9ポイント減で、5割を割る目前まできている。

行事食や郷土料理は、地域の歴史や風土に培われ、四季折々の農産物や地域固有の食材を知る機会となり、地域に根ざした食文化のひとつである。

みなかみ町の行事食や郷土料理を発掘し、今後、食生活改善推進員等による普及活動や、こども園や学校給食における、さらなる情報提供などにより、次世代に伝えていくことが重要である。

(1) 「行事食」の実施について(保護者)

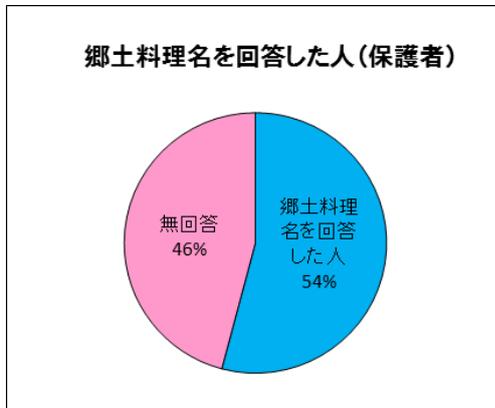


行事食を「知っており、家でやっている」と回答した保護者の割合は52%で、前回調査と比較して9ポイント減少した。

「知っているがやらない」など行事食を実施していない家庭の割合は、無回答も含めて48%であった。

(平成27年食に関するアンケートより)

(2) 郷土料理について(保護者)



郷土料理名を回答した人は54%と約半数であり、前回調査の48%に比較し6ポイント増加した。

(平成27年食に関するアンケートより)



中学校での郷土料理調理実習の様子

※平成22年 食に関するアンケート (前回調査)

- 調査期間:平成22年1月～2月
- 対象:4歳児(年中組)の保護者142名、小学5年生とその保護者398名、中学2年生とその保護者414名
- 回収率:児童・生徒 100.0%、幼児・児童・生徒の保護者 90.9%
- 調査方法:保育園・幼稚園・こども園・学校を通じ、保護者及び本人に配布

4歳児は保護者が回答、小学5年生・中学2年生は児童・生徒及び保護者がそれぞれ回答。
保育園・幼稚園・こども園・学校を通じ回収。

※平成27年 食に関するアンケート

- 調査期間:平成27年9月～10月
- 対象:4歳児(年中組)の保護者111名、小学5年生とその保護者274名、中学2年生とその保護者324名
- 回収率:児童・生徒 98.0%、幼児・児童・生徒の保護者 91.5%
- 調査方法:保育園・幼稚園・こども園・学校を通じ、保護者及び本人に配布

4歳児は保護者が回答、小学5年生・中学2年生は児童・生徒及び保護者がそれぞれ回答。
保育園・幼稚園・こども園・学校を通じ回収。

第3章 基本方針

1 基本理念

**「みなかみ町」の豊かな恵みに感謝し、
「食」を通じ、健康な生活の実現をめざす**

町民一人ひとりが、食に関する知識と、食を選択する力を楽しく学び実践することによって、心身の健康を守り、豊かな人間性を育むことをめざします。また、食の大切さについて考え直し、自然の恵みに感謝する心を育みます。

2 基本方針

基本理念をうけ、5つの基本方針を設定します。

- 1.食に関する知識や判断力を高め、健全な食習慣を自ら実践できる力を育てる
- 2.食を通じてコミュニケーションを深め、食の楽しさ、豊かさを体験する
- 3.食の大切さを理解し、自然の恵みや、食に関わる人々への感謝の心を育てる
- 4.郷土料理や行事食を学ぶことにより、伝統的な食文化への理解を深める
- 5.安心安全な地元の農産物への知識と関心を深め、地産地消を推進する

3 第2次計画の重点課題

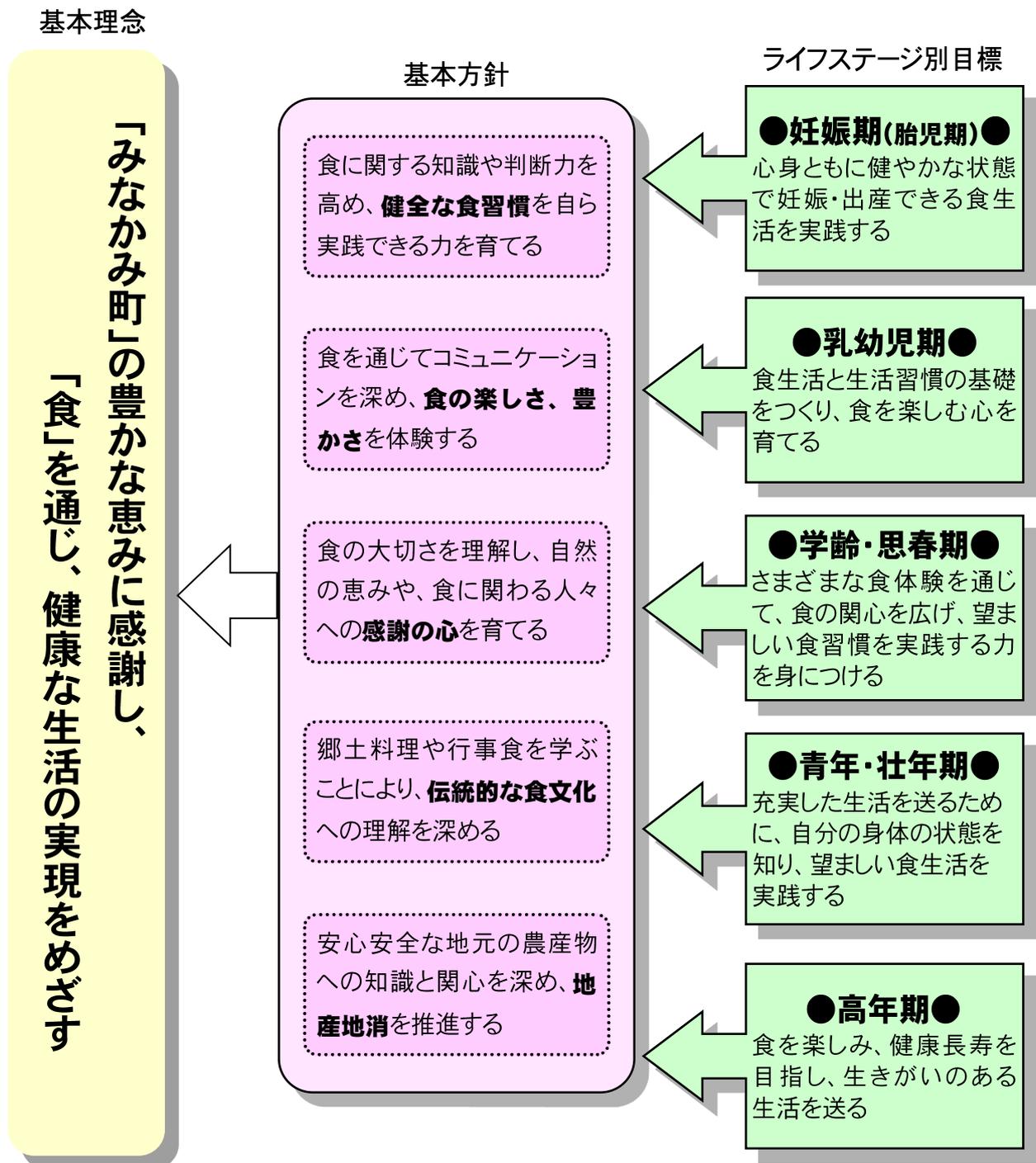
より効果的に食育を推進するため、5つの重点課題を掲げます。

- 1.早寝早起き朝ごはんを推進し、規則正しい生活習慣を身につける
- 2.家庭における共食を心がけ、楽しい食卓から食育を推進する
- 3.乳幼児期からの食育を通して、若い世代の食育につなげていく
- 4.郷土の行事食を知り、子ども達に伝えていく
- 5.地産地消を通して、野菜に親しめる環境づくりを推進する

4 体系図

基本理念・基本方針の実現に向け、5つのライフステージ別に目標を設定し、推進していきます。

〈みなかみ町食育推進計画体系図〉



第4章 ライフステージごとの目標

食べることは、生涯を通して生まれ、食習慣は長い年月をかけてつくられていきます。そのため、食育を推進するにあたり、ライフステージごとの特徴にあわせた食育を実施していくことが必要です。「妊娠期(胎児期)」、「乳幼児期」、「学齢・思春期」、「青年・壮年期」、「高年期」の5つのライフステージにわけて、それぞれの段階における目標と取り組みを設定しました。

妊娠期（胎児期）

妊娠期は、赤ちゃんの発育に必要な栄養はすべて母体を通じて与えられるため、胎児の成長と授乳期の準備のために十分な栄養が必要です。そのため母親は、規則正しい食生活の重要性の認識および食に関する知識の習得をし、望ましい食生活を実践することが必要です。

目標

**『心身ともに健やかな状態で妊娠・出産できる
食生活を実践する』**

●取り組み●

- 妊娠中に必要な栄養について知り、バランスの良い食事を心がけます。
- 望ましい体重増加量を知り、体重をコントロールします。
- 赤ちゃんと自分の健康を守るために、お酒やたばこの習慣をやめます。
- 定期的に妊婦健診を受け、健康管理をしっかり行います。



◆具体的な取り組み（◎は重点項目）◆

<h2>家庭ですること</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ◎欠食、偏食などの習慣があれば改善し、1日3回バランス良く食事をとる。 ◎望ましい体重増加量および食事の適正量を知り、体重増加をコントロールする。 ◎お酒やたばこなど、赤ちゃんの成長に影響のある嗜好品はやめる。 ◎両親学級等に積極的に参加する。 ○料理に興味を持ち、基本的な調理技術を身につける。 ○間食は内容・量を考えてとる。 ○妊婦健診で自分や赤ちゃんの健康状態を確認する。 ○妊娠中の口腔ケアに注意する。 ○妊婦さんがいるところでは、たばこを吸わないようにする。
<h2>地域ですること</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ○妊婦さんがいるところでは、たばこを吸わないようにする。
<h2>行政ですること</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ◎あんしん出産子育てサポートアプリや町ホームページなどを通じて、妊娠中の食事についての情報提供を充実させる。 ◎母子健康手帳交付時に、バランスの良い食事や妊娠期の食事について情報提供をする。 ○妊娠中の健康管理(口腔ケア、体重管理、お酒・たばこ等について)や食生活などについて、相談・学習できる場をつくる。 ○妊婦さん同士の交流の場をつくる。また交流できる場の情報提供をする。 ○妊婦さんとおなかの中の赤ちゃんの健康管理のために、妊婦健康診査受診票を発行する。



両親学級での調理実習の様子



乳幼児期（0～5歳）

乳幼児期は、一生のうちでもっとも著しく成長するとともに、感覚機能や咀嚼機能の発達、食生活のリズムの基礎を身につける等、生涯における発達を方向づける意味でとても重要な時期です。

乳児期には、授乳や離乳食を通じた親子のふれあいにより、精神的な安定、愛情や安心感、信頼感等を身につけていきます。幼児期には食生活の基本となる味覚が形成されます。また、自我の芽生えにより、偏食や少食といった問題もおこりやすくなります。

このため、子どもの個人差に配慮し、家族や友達と楽しい雰囲気でする食事することや、いろいろな食品の味や触感等、五感を磨くための経験をすることが大切です。また、家庭を中心に、こども園等とも連携し、食育に取り組んでいくことが必要です。

目標

『食生活と生活習慣の基礎をつくり、食を楽しむ心を育てる』

●取り組み●

- 規則正しい生活習慣や食事のマナーを身につけます。
- 家族そろってバランスの良い食事をし、楽しく食事をします。
- さまざまな食体験(収穫・栽培・調理等)を通じて、食に関心を持ちます。

◆具体的な取り組み（◎は重点項目）◆

家庭ですること(保護者が主体となり子どもに実施)

- ◎「早寝早起き朝ごはん」を実践し、生活のリズムをつくる。
- ◎よく遊び、よく眠り、お腹がすくリズムをつける。
- ◎家族そろって、楽しく食事をする。
- ◎野菜を毎食食べ、野菜の味に親しむ。
- ◎食事の準備や調理、片づけ、買い物等のお手伝いをする。
- ◎間食は時間と量を決めて食べる。
- いろいろな食べ物を食べる。
- 食事前後のあいさつや、正しい箸の持ち方等、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける。
- 食事の時は、テレビを消して食べる。
- 郷土料理や行事食を家庭での食事に取り入れ、親しむ機会をつくる。
- 地域でとれた食材や、四季折々の旬の食材を使った食事作りを心がける。
- 野菜や果物などの栽培や収穫の喜びを体験し、野菜に親しみを持つ。
- 歯磨きをする習慣を身につける。

地域ですること

- 食べ物を調理・加工する体験の場をつくる。
- 地産地消の推進、地域の特産物・郷土料理を普及する。
- 野菜や果物などの栽培や収穫を体験する場を提供する。
- ボランティアによる食に関する正しい情報の提供をする。

<教育機関を通じて実施すること>

- こども園等で行う食育の取り組みに協力する。
- みなかみ町で生産された食材が給食で使えるよう、協力する。

教育機関(こども園)ですること

- ◎**保育・教育活動の中で「早寝早起き朝ごはん」の大切さを伝える。**
- ◎**給食やおやつを通して、食の大切さや自分の健康について知る機会をつくる。**
- ◎**給食に地域でとれた食材を利用し、郷土料理や行事食を取り入れ、子どもが親しめる機会をつくる。**
- クッキング保育を実施し、食に関わる体験の場をつくり、食の大切さについて学ぶ。
- 野菜や果物などの栽培や収穫の喜びを体験する場をつくる。
- 保護者に給食の展示や給食試食会を実施する。
- 保護者に食や生活リズムの大切さなどについて継続的に情報提供をする。
- 保護者に簡単にできる朝食や、給食等のレシピを紹介する。
- 食育の日(毎月19日)、食育月間(6月)を普及する。
- こども園で食育推進計画を策定し、園全体で食育をすすめる。

行政ですること

- ◎**乳幼児健診、料理教室等で「早寝早起き朝ごはん」をすすめる。**
- ◎**あんしん出産子育てサポートアプリなどを通じて、保護者に離乳食や幼児食についての情報提供を行い、食に関する不安や悩みを相談できる場を設ける。**
- ◎**料理教室等で、親子で一緒に料理する場をつくる。**
- 地域でとれる食材や、郷土料理や行事食等について、保護者に情報提供をする。
- 乳幼児健診等において、保護者に食や生活リズムの大切さなどについて継続的に指導や情報提供をする。
- 幼児健診でフッ素塗布を実施し、むし歯予防に取り組む。
- 保護者に簡単にできる料理のレシピの紹介や楽しく食事をする工夫を紹介する。
- 食育の日(毎月19日)、食育月間(6月)を普及する。



にいほるこども園でのじゃが芋植え体験の様子

学齢・思春期（6～18歳）

学齢・思春期は心身の発達が著しく、幼児期に引き続き健全な生活リズムを身につけ、習慣化するとともに、多くの体験を通じて、自立につなげる力をはぐくむ時期です。

また、一方で、家族間の生活習慣のずれ等から、生活リズムの乱れ、朝食の欠食、おやつを食べすぎなどの食習慣の乱れが増加する時期でもあります。

このため、家庭と学校、地域等が連携し、家族と楽しく食卓を囲むことや、学校給食や農業体験等の取り組みを通じて、食べる楽しさや食への興味・関心を深め、望ましい食習慣を身につける必要があります。

目標

『さまざまな食体験を通じて、食への関心を広げ、 望ましい食習慣を実践する力を身につける』

●取り組み●

- 規則正しい生活リズムを身につけます。
- 食べ物を選ぶ力を身につけ、望ましい食習慣を実践します。
- 食事と健康の大切さについて学び、健全な心と体をつくります。
- 家族や友達と一緒に食べる楽しさを知り、食事のマナーを身につけます。
- 地域の特産物や郷土料理・行事食を知り、食への関心を深めます。
- さまざまな食体験を通じて、食に関わる様々な人への感謝の気持ちをもちます。

◆具体的な取り組み（◎は重点項目）◆

家庭ですること（年齢に応じて保護者はサポートする）

- ◎「早寝早起き朝ごはん」を習慣づけ、生活のリズムを整える。
- ◎家庭での食事を大切にし、一日一回以上は、家族そろって食事をとれるように心がける。
- ◎バランスの良い食事について理解し、自分で食べ物を選ぶ力を身につける。
- ◎野菜を毎食食べ、野菜の味に親しむ。
- ◎お手伝いを通して、料理を作る楽しさを学び、基本的な調理技術を身につける。
- 食事前後のあいさつや、正しい箸の持ち方等、気持ちよく食事をとるためのマナーを身につける。
- 食事の時は、テレビを消して食べるようにする。
- 毎食後、歯磨きをする習慣を身につける。
- 適正体重を知り、肥満や痩せすぎを予防する。
- 食べ物を大切にし、感謝の気持ちをもつ。
- 郷土料理や行事食を家庭での食事に取り入れ、親しむ機会をつくる。
- 地域でとれた食材や、四季折々の旬の食材を使った食事作りを心がける。
- 農産物の栽培や収穫を体験し、食や農業に関心をもつ。

地域ですること

- 食べ物を調理・加工する体験の場をつくる。
- 地産地消の推進、地域の特産物・郷土料理を普及する。
- 野菜・果物や米などの栽培や収穫を体験する場を提供する。
- ボランティアによる調理実習の実施や、食に関する正しい情報の提供をする。

＜教育機関を通じて実施すること＞

- 学校等で行う食育の取り組みに協力する。
- 給食へみなかみ町で生産された食材が使えるよう、協力する。

教育機関ですること

- ◎**町内で統一した、学年ごとの「食についてのねらい」を定め、各学校で取り組む。**
- ◎**教育活動の中で「早寝早起き朝ごはん」を推進する。**
- ◎**保護者に、家族そろって食事を食べる大切さについて伝える。**
- ◎**地域でとれる食材や郷土料理・行事食等について、知り、学ぶ機会をつくる。**
- 給食や体験学習などを通して、食事のバランスや食べる量を学ぶ機会をつくる。
- 食べ物を調理・加工する体験の場をつくる。
- 野菜・果物や米などの農産物の栽培や収穫を体験する場をつくる。また、地域の人たちと連携し、栽培・収穫体験を充実させる。
- 給食試食会等を実施し、保護者に食に関して知ってもらう機会を作り、情報提供する。
- 給食だより等を通じ、保護者に食に関する情報を発信する。
- よくかむことや歯磨きの大切さを学ぶ機会をつくる。
- 学校保健委員会等で、「食」について取り組む。
- 給食における残食を減らすため、好き嫌いせず食べるよう指導するとともに、献立内容等を充実させる。
- 学校で食育推進計画を策定し、食育をすすめる。

行政ですること

- ◎**児童・生徒に対し料理教室等を実施し、基本的な調理技術や食について学ぶ機会をつくる。**
- 保護者に簡単にできる料理のレシピの紹介をする。
- 地域でとれる食材や、郷土料理・行事食等について、情報提供をする。
- 栄養教諭・学校栄養職員等と連携し、食育を推進する。
- 食育の日(毎月19日)、食育月間(6月)を普及する。
- 健康への意識付けと体力増進を図り、また青年・壮年期の健康づくりにつなげるため、「みなComing体操」を普及する。



みなかみキッズのクッキング教室の様子

青年・壮年期（19～64歳）

青年・壮年期は、就職・結婚・出産・育児などにより、生活が大きく変化します。また、仕事や地域社会での役割が増え、職場や家庭の中心となって生活する時期となります。

しかし、健康面では、自分の健康管理がおろそかになったり、不規則な生活リズムや心身のストレス増加などにより、生活習慣病が発生しやすい時期でもあります。

このため、望ましい生活習慣や食習慣を身につけることで生活習慣病を予防し、また定期的な健康診査の受診などによる疾病の早期発見・早期治療により、健康的な生活習慣を維持することが必要です。

さらに、この時期は、家庭で子どもの食環境をつくる役割や、地域活動および次世代に食の大切さや食文化を伝える役割も期待されます。

目標

**『充実した生活を送るために、自分の身体の状態を知り、
望ましい食生活を実践する』**

●取り組み●

- 食に関する正しい情報を選択できる力を身につけ、栄養バランスの良い食事をします。
- 規則正しい食生活を実践し、メタボリックシンドロームや生活習慣病を予防します。
- 地域の特産物や郷土料理・行事食を知り、実践することで次世代へ伝えます。



地産地消料理教室の様子



男性の料理教室の様子

◆具体的な取り組み（◎は重点項目）◆

<h2 style="margin: 0;">家庭ですること</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ◎朝食を毎日食べ、生活のリズムを整える。 ◎家族や友人と食卓を囲み、楽しく食事をする。 ◎適正体重を知り、維持できるよう、栄養バランスを考えた食事と適度な運動に努める。 ◎過剰な塩分や糖分、脂質は控える。 ◎郷土料理・行事食を実践し、家族や地域に伝える。 ◎健康診査や人間ドックを毎年受診し、自分の健康状態を知り、健康を維持する。 ○食事バランスガイド等の食事に関する指針を参考に主食・主菜・副菜がそろった食事をする。 ○地域でとれた食材や、四季折々の旬の食材を使った食事作りを心がける。 ○メタボリックシンドロームや生活習慣病について学び、予防に努める。 ○定期的に歯科受診をし、むし歯や歯周病を予防する。
<h2 style="margin: 0;">地域ですること</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ○地産地消の推進、地域の特産物・郷土料理を普及する。 ○ボランティアによる調理実習の実施や、食に関する正しい情報の提供をする。
<h2 style="margin: 0;">行政ですること</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ◎各種健(検)診を実施し、メタボリックシンドロームや生活習慣病の早期発見に努める。 ◎健康(料理・運動)教室で食や健康、疾病予防についての知識を普及し、健康の自己管理ができるように支援する。 ◎地産地消の料理教室を実施し、地元産の食材を普及する。 ○食事バランスガイド等の食事に関する指針の普及・啓発をする。 ○運動教室を通して、日常生活に取り入れやすい運動実践について普及啓発を推進する。 ○「みなComing体操」および「+10(プラス・テン)」運動(※)を普及する。 ○広報で地元産の食材を使った料理やヘルシーメニュー等の紹介をする。 ○農産物直売所の場所や、販売されている農産物等の情報提供をする。 ○食生活改善推進員の養成・育成に努める。 ○食育の日(毎月19日)、食育月間(6月)を普及する。

※「+10(プラス・テン)」とは…今より1日10分多く体を動かすことで健康増進・健康寿命の延伸をめざすことを目的とした指針。



高年期（65歳～）

高年期は、退職に伴う社会からの孤立や、子どもの自立などにより社会的、精神的に大きな変化が現れる時期です。また体力の低下が進み、健康への不安を感じるが多くなる時期でもあります。高齢者のひとり暮らしや高齢者夫婦世帯の増加により、食材の調達が困難になったり、身体機能の低下で調理が困難になったりするため、食に対する意識が低下しがちです。さらに、口腔機能の低下も生じることから、低栄養などの健康課題もみられます。

このため、元気でいきいきと暮らせるように、望ましい食習慣を継続し、自分の健康管理に努め、健康長寿を目指すことが必要です。

また、食に関する豊かな知識と経験を家族や地域に伝えるなど、次世代へつないでいくための役割も期待されます。

目標

『食を楽しみ、健康長寿を目指し、生きがいのある生活を送る』

●取り組み●

- 健康づくりに関心をもち、栄養バランスの良い食事をします。
- 郷土料理や行事食などの伝統的な食文化や、食に関する知識や経験を家族や地域に伝えます。
- 家族や友人、地域の人と交流を持ちます。



高齢者の料理教室の様子

◆具体的な取り組み（◎は重点項目）◆

家庭ですること

- ◎家族や友人と楽しい雰囲気でする。
- ◎栄養バランスについて知り、過剰摂取や低栄養、脱水を予防する
- ◎郷土料理・行事食を实践し、家族や地域に伝える。
- 地域でとれた食材や、四季折々の旬の食材を使った食事作りを心がける。
- 体調に応じて食事内容を工夫する。
- 健康診査を毎年受診し、自分の健康状態を知り、健康を維持する。
- 定期的に医療機関を受診し、生活習慣病等の重症化を予防する。
- 生活の中に適度な運動を取り入れる。
- 定期的に歯科受診をし、口腔機能の維持に努める。

地域ですること

- 地域で定期的にサロンを開催し、食に関する知識や経験を提供できる場をつくる。
- 買い物に行けない高齢者に対して、食材等を購入できる機会をつくる。
- 地産地消の推進、地域の特産物・郷土料理を普及する。
- ボランティアによる食に関する正しい情報の提供をする。

行政ですること

- ◎各種健(検)診を実施し、メタボリックシンドロームや生活習慣病の早期発見に努める。
- ◎健康(料理・運動)教室で食や健康、疾病予防についての知識を普及し、健康の自己管理ができるように支援する。
- ◎健康教室を通して、地域の人達が交流を持てる機会をつくる。
- ひとり暮らし高齢者に実施している配食サービスを支援する。
- 必要に応じて、サロン等に保健師・栄養士が参加し、健康教育・健康相談を行う。
- 食育の日(毎月19日)、食育月間(6月)を普及する。



第5章 食育推進にあたっての目標値

食育を推進するにあたり、より効果的で実践的な施策を展開する上で、その成果や達成度を客観的な指標により把握します。国や県が示す食育推進基本計画等を基に、目標値を設定しました。

(※現状値が「-」の項目は、平成28年度以降に調査予定)

1. 食に関する知識や判断力を高め、健全な食習慣を自ら実践できる力を育てる

指 標	計画策定時 (平成22年)	現状値 (平成27年)	目標値	現状値の データ根拠
朝食を毎日食べる割合				
4歳児	94%	91%	100%	H27年食に関するアンケート
小学5年生	95%	96%	100%	H27年食に関するアンケート
中学2年生	89%	86%	100%	H27年食に関するアンケート
子どもの保護者	83%	87%	100%	H27年食に関するアンケート
早寝・早起きの習慣がある割合				
4歳児 (就寝21時まで、起床7時まで)	—	—	就寝:80% 起床:90%	
小学5年生 (就寝22時まで、起床7時まで)	就寝:57% 起床:87% 両方:52%	就寝:87% 起床:99%	就寝:100% 起床:100%	H27年朝ごはんアンケート
中学2年生 (就寝23時まで、起床7時まで)	就寝:31% 起床:65% 両方:24%	就寝:80% 起床:97%	就寝:80% 起床:100%	H27年朝ごはんアンケート
主食・主菜・副菜がそろった朝食をとっている割合				
4歳児	26%	26%	50%以上	H27年食に関するアンケート
小学5年生	31%	30%	50%以上	H27年朝ごはんアンケート
中学2年生	28%	45%	50%以上	H27年朝ごはんアンケート

指 標	計画策定時 (平成22年)	現状値 (平成27年)	目標値	現状値の データ根拠
「食事バランスガイド」「3色分類」「6つの基礎食品」などの食事に関する指針を参考にして いる人の割合				
子どもの保護者	45% (バランスガイドのみの値)	47% (バランスガイドのみの値)	60%以上	H27年食に関する アンケート
野菜を毎食食べる割合				
4歳児	36%	38%	60%以上	H27年食に関する アンケート
小学5年生	42%	37%	60%以上	H27年食に関する アンケート
中学2年生	46%	24%	60%以上	H27年食に関する アンケート
食育に関心がある人の割合(どちらかといえば関心があるを含む)				
子どもの保護者	80%	81%	90%以上	H27年食に関する アンケート
肥満者の割合				
4歳児	男:6%、女:11%	男:8%、女:10%	男:5%、女:5% 以下	H27年食に関する アンケート
小学生	男:22%、女:12% (小学5年生の値)	男:13%、女:11%	男:10%、女:8% 以下	H27年食に関する アンケート
中学生	男:17%、女:4% (中学2年生の値)	男:13%、女:11%	男:10%、女:8% 以下	H27年食に関する アンケート
一般成人 (40歳から74歳)	男:25%、女:23%	男:25%、女:21%	男:20%、女:15% 以下	H26年特定健診 結果
メタボリックシンドロームの該当者[予備軍]の割合				
男性(40歳から74歳)	18% [14%]	22% [16%]	15%[10%]以下	H26年特定健診 結果
女性(40歳から74歳)	8% [5%]	7% [6%]	5%[5%]以下	H26年特定健診 結果
日頃、食事や栄養に気をつけている割合				
一般成人	—	54%	60%以上	H27年町民アン ケート

指 標	計画策定時 (平成22年)	現状値 (平成27年)	目標値	現状値の データ根拠
間食のとり方(時間・回数・量・塩分・糖分・脂質・バランス等)について気をつけている割合				
4歳児	—	—	80%以上	
小学5年生	—	—	80%以上	
中学2年生	—	—	80%以上	
毎食後、歯磨きをする割合				
4歳児	—	—	80%以上	
小学5年生	—	—	80%以上	
中学2年生	—	—	80%以上	
毎日、排便の習慣がある割合				
小学5年生	76%	—	80%以上	(計画策定時)H21年朝ご はんアンケート
中学2年生	71%	—	80%以上	(計画策定時)H21年朝ご はんアンケート

2. 食の大切さを理解し、自然の恵みや、食に関わる人々への感謝の心を育てる

指 標	計画策定時 (平成22年)	現状値 (平成27年)	目標値	現状値の データ根拠
普段、食事に関する手伝いをする割合				
4歳児	—	94%	95%以上	H26年親と子の食体 験講習会アンケート
小学5年生	—	96%	100%	H27年食に関するアン ケート
中学2年生	—	90%	95%以上	H27年食に関するアン ケート
給食や家庭での食事を残さず食べるようにしている割合				
小学5年生	—	—	80%以上	
中学2年生	—	—	80%以上	
野菜の収穫栽培の体験をする割合				
こども園	100%	100%	100%	
小学校	100%	100%	100%	
中学校	—	—	100%	

3. 食を通じてコミュニケーションを深め、食の楽しさ、豊かさを体験する

指 標	計画策定時 (平成22年)	現状値 (平成27年)	目標値	現状値の データ根拠
食事がいつも楽しいと感じる割合				
4歳児	58%	55%	70%以上	H27年食に関するアンケート
小学5年生	48%	49%	70%以上	H27年食に関するアンケート
中学2年生	38%	52%	70%以上	H27年食に関するアンケート
保護者(食事作り)	34%	34%	40%以上	H27年食に関するアンケート
食事を家族そろって食べる割合				
4歳児	朝:30% 夜:65%	朝:24% 夜:54%	朝:30%以上 夜:70%以上	H27年食に関するアンケート
小学5年生	朝:29% 夜:60%	朝:26% 夜:55%	朝:30%以上 夜:65%以上	H27年食に関するアンケート
中学2年生	朝:28% 夜:61%	朝:20% 夜:55%	朝:30%以上 夜:65%以上	H27年食に関するアンケート
食事を子どもたちだけ(ひとりで食べるを含む)で食べる割合				
4歳児	朝:10% 夜:1%	朝:18% 夜:1%	朝:0% 夜:0%	H27年食に関するアンケート
小学5年生	朝:33% 夜:11%	朝:34% 夜:5%	朝:30%以下 夜:0%	H27年食に関するアンケート
中学2年生	朝:39% 夜:10%	朝:42% 夜:8%	朝:30%以下 夜:5%	H27年食に関するアンケート
食事のことで困っている事がある保護者の割合				
10か月健診時	—	30%	25%以下	H25年度10か月健診アンケート
1歳6か月児健診時	70%	61%	50%以下	H25年度1歳6か月児健診アンケート
3歳児健診時	57%	62%	50%以下	H25年度3歳児健診アンケート
4歳児	83%	76%	60%以下	H27年食に関するアンケート

4. 郷土の行事食や伝承料理を学ぶことにより、食文化への理解を深める

指 標	計画策定時 (平成22年)	現状値 (平成27年)	目標値	現状値の データ根拠
知っている行事食の数(行事数で集計)				
小学5年生	13.5個	13.7個	15個	H27年食に関するアンケート
中学2年生	13.0個	14.4個	15個	H27年食に関するアンケート
家庭で実施している行事食の数(行事数で集計)				
4歳児	5.5個	4.7個	8個	H27年食に関するアンケート
小学5年生	5.9個	5.2個	8個	H27年食に関するアンケート
中学2年生	5.5個	4.5個	8個	H27年食に関するアンケート
行事食を知っており、実施している割合				
保護者(知っている)	85%	84%	90%以上	H27年食に関するアンケート
保護者 (知っており実施している)	61%	52%	60%以上	H27年食に関するアンケート
群馬の郷土料理を知っている割合(郷土料理名を回答した人)				
保護者	48% (みなかみ町の郷土料理)	54% (みなかみ町の郷土料理)	60%	H27年食に関するアンケート

5. 安心安全な地元の農産物への知識と関心を深め、地産地消を推進する

指 標	計画策定時 (平成22年)	現状値 (平成27年)	目標値	現状値の データ根拠
みなかみ町でとれる農産物を知っている割合				
小学5年生	73%	82%	90%以上	H27年食に関するアンケート
中学2年生	75%	78%	90%以上	H27年食に関するアンケート
食べ物の旬や生産地を知っている割合(少し知っている)				
小学5年生	80%	82%	90%以上	H27年食に関するアンケート
中学2年生	80%	89%	95%以上	H27年食に関するアンケート
「地産地消」を知っている割合(聞いたことがあり、意味も知っている)				
保護者	70%	79%	90%以上	H27年食に関するアンケート

参 考 資 料

資料1	食に関するアンケート調査結果	29
資料2	特定健診結果	42
資料3	子どもの肥満とむし歯の状況	45
資料4	食についてのアンケート調査用紙 ・小学5年生、中学2年生用 ・小学5年生、中学2年生の保護者用 ・4歳児の保護者用	46
資料5	みなかみ町食育推進検討委員会設置要項	61
資料6	みなかみ町食育推進計画策定経過	63
資料7	みなかみ町食育推進検討委員会 委員名簿	64
資料8	みなかみ町食育推進部会 部会員名簿	65

資料1 食に関するアンケート調査結果

(1) 調査対象者及び回収率

対象者	人数	回収人数	回収率
小学5年生	137人	136人	99.3%
中学2年生	162人	157人	96.9%
4歳児の保護者	111人	96人	86.5%
小学5年生の保護者	137人	133人	97.1%
中学2年生の保護者	162人	146人	90.1%

(2) 実施期間および調査方法

●実施期間：平成27年9月～10月

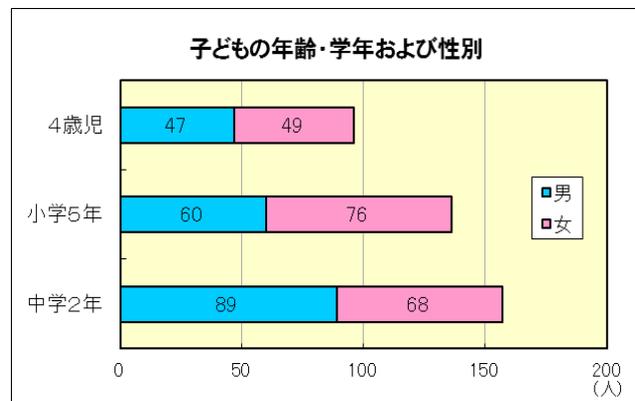
●調査方法：無記名自記式質問紙による記入回答

※対象者への質問紙配布および回収は保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校に依頼

<回答者の属性>

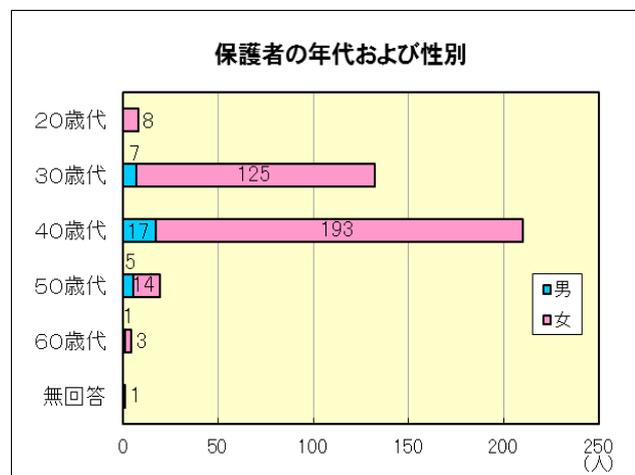
(1) 子どもの年齢・学年および性別 (人)

	男	女	計
4歳児	47	49	96
小学5年	60	76	136
中学2年	89	68	157
計	196	193	389



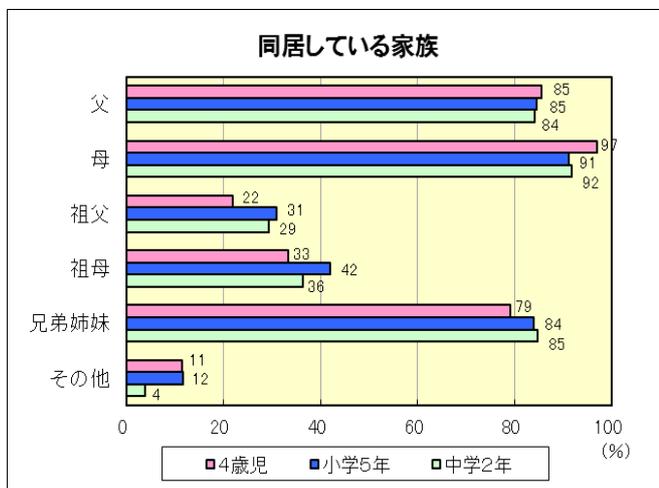
(2) 保護者の年代および性別 (人)

	男	女	無回答	計
20歳代	0	8	0	8
30歳代	7	125	0	132
40歳代	17	193	0	210
50歳代	5	14	0	19
60歳代	1	3	0	4
無回答	0	1	1	2
計	30	344	1	375



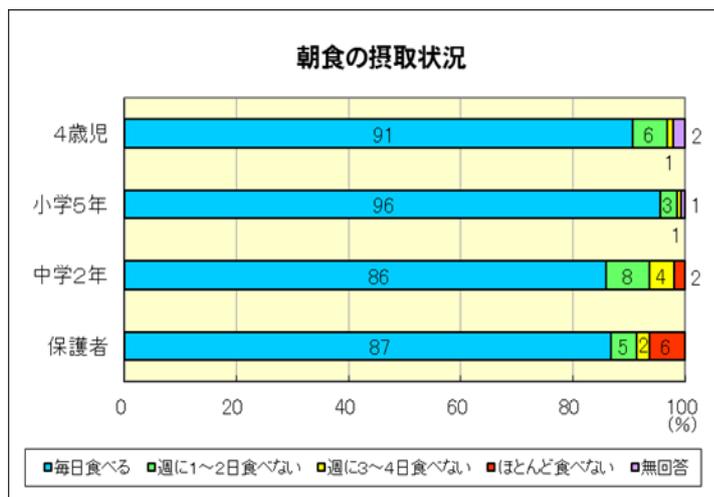
(3)同居している家族 (人)

	4歳児	小学5年	中学2年
父	82	115	132
母	93	124	144
祖父	21	42	46
祖母	32	57	57
兄弟姉妹	76	114	133
その他	11	16	6



<食事の状況>

(1)朝食の摂取状況



朝食を「毎日食べている」割合は、全体を平均すると約90%である。中学2年生は86%で、4者の中で最も低い。平成22年食に関するアンケート調査（以下、「前回調査」という）で「毎日食べている」割合が83%であった保護者は、今回は87%で4ポイントの微増となっている。

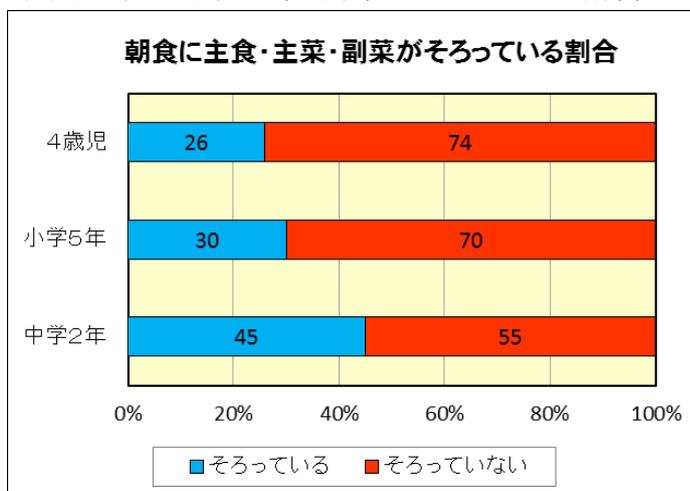
朝食を食べない理由は、保護者は「食べる時間がない」が多いのに対し、子どもは「食欲がない・食べたくない」が最も多い。

朝食欠食は生活習慣との関係が深く、早寝・早起きなど生活リズムを整える事が大切である。また、発育・発達途上の子どもたちには欠食による栄養不足や偏りが心配される。食欲がない理由について原因究明し、生活改善を図る工夫が必要である。

●朝食を食べない理由 (人)

	4歳児	小学5年	中学2年	保護者
食べる時間がない	2	3	7	17
食欲がない・食べたくない	4	9	8	10
食べなくても平気	0	4	2	—
食べる習慣がない	—	—	—	11
朝ごはんの用意ができていない	0	2	0	—
作るのが面倒	—	—	—	1
ダイエットのため	0	0	0	2

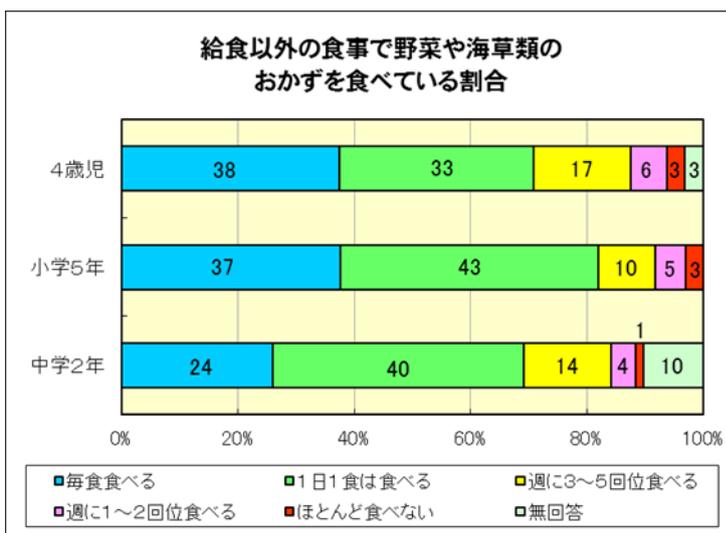
(2) 朝食に主食・主菜・副菜がそろっている割合



アンケート記入日の朝食の内容を具体的に記述してもらい、その記述をもとに「主食・主菜・副菜がそろっているか」を判定した。前回調査と比較すると、4歳児は4ポイント減少、小学5年生は1ポイント減少、中学2年生は17ポイント増加した。

「主食・主菜・副菜」のそろった食事は全ての年代に共通する食事の基本形であることから、乳幼児期からしっかりと「主食・主菜・副菜」という食事の形を揃えて、習慣化することが重要である。

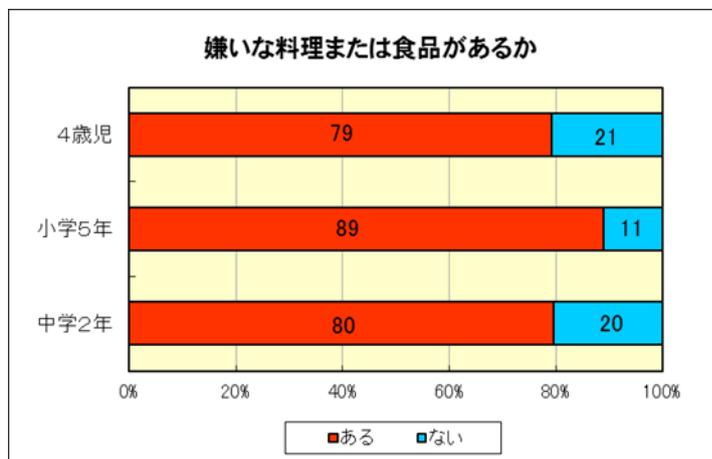
(3) 給食以外の食事で野菜や海藻類のおかずを食べている割合



給食以外の食事で野菜や海藻類のおかずを「毎食食べる」と回答したのは、4歳児38%、小学5年生37%、中学2年生24%である。前回調査を上回っているのは4歳児のみ(2ポイント上昇)で、小学5年生は5ポイント減少、中学2年生は22ポイント減少となっている。

中学生においては、野菜の大切さを理解し、バランス良く食べるためには何が必要か、正しく選択できる力を身につけるための取り組みが、より一層必要であると思われる。

(4) 好き嫌いの状況



嫌いな料理または食品が「ある」と回答したのは、4歳児79%、小学5年生89%、中学2年生80%であり、前回調査と比較して4歳児、小学5年生はほとんど増減がないが、中学2年生は7ポイント減少した。

好きな食べ物の状況では、どの年齢においても、カレー、ハンバーグ、ラーメンは5位以内に入っている。

嫌いな食べ物の状況では、どの年齢においても、なす、ピーマン、きのこと類は5位以内に入っており、野菜類ときのこと類で上位をほぼ占めている。

●好きな食べ物の状況

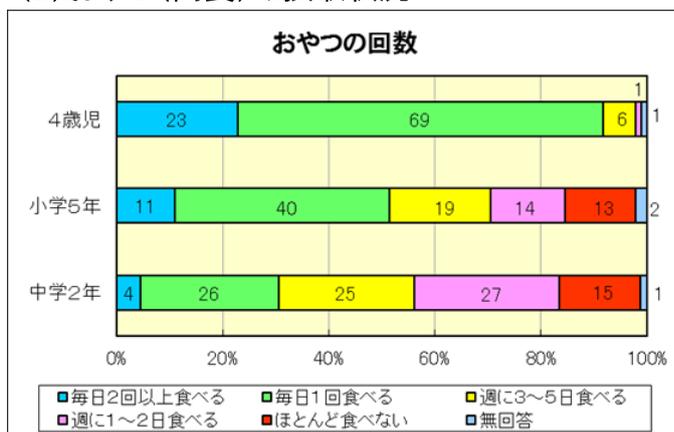
	4歳児			小学5年			中学2年		
	料理名	人数	%	料理名	人数	%	料理名	人数	%
1位	カレー	28	29.2	カレー	31	22.8	ラーメン	29	18.5
2位	ハンバーグ	22	22.9	ハンバーグ	21	15.4	ハンバーグ	22	14.0
3位	肉類	13	12.5	スパゲティ・パスタ	18	13.2	スパゲティ・パスタ	21	13.4
4位	ラーメン	12	12.5	寿司	15	11.0	肉類	21	13.4
5位	から揚げ	12	0.0	ラーメン	13	9.6	カレー	20	12.7
	(ラーメン、から揚げ 同率4位)			オムライス	13	9.6	(スパゲティ・パスタ、肉類 同率3位)		
	(ラーメン、オムライス 同率5位)								

●嫌いな食べ物の状況

	4歳児			小学5年			中学2年		
	料理名	人数	%	料理名	人数	%	料理名	人数	%
1位	ピーマン	20	20.8	ゴーヤ・ゴーヤ料理	39	28.7	ピーマン	22	14.0
2位	野菜類	13	13.5	ピーマン	26	19.1	なす	22	14.0
3位	なす	12	12.5	なす	25	18.4	ゴーヤ・ゴーヤ料理	20	12.7
4位	きのこ類	9	9.4	魚介類	15	11.0	きのこ類	12	7.6
5位	トマト	9	9.4	きのこ類	12	8.8	梅・梅干し	11	7.0
6位	ねぎ	9	9.4	納豆	10	7.4	野菜類	10	6.4
	(きのこ類、トマト、ねぎ 同率4位)						(ピーマン、なす 同率1位)		

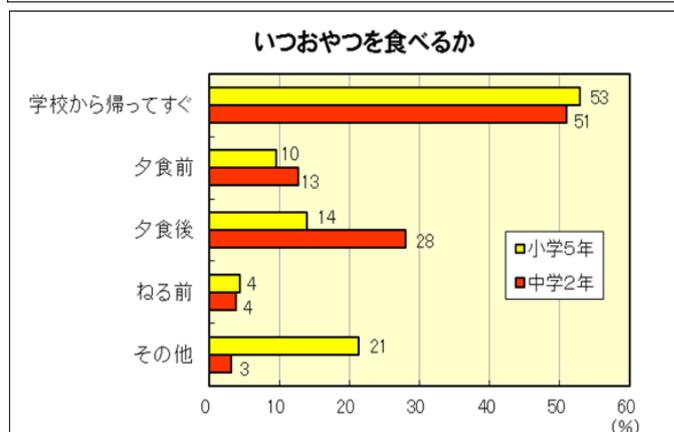
(3)(4)より、野菜を嫌いな子どもが多く、野菜の摂取量が不足していると考えられる。嫌いな食べ物でも、一口は食べてみる、チャレンジすることが大切である。特に野菜は、苦手な子どもが多いため、おいしい野菜の食べ方を知り、また、地元でとれた新鮮な野菜のおいしさを感じる必要がある。

(5)おやつ(間食)の摂取状況

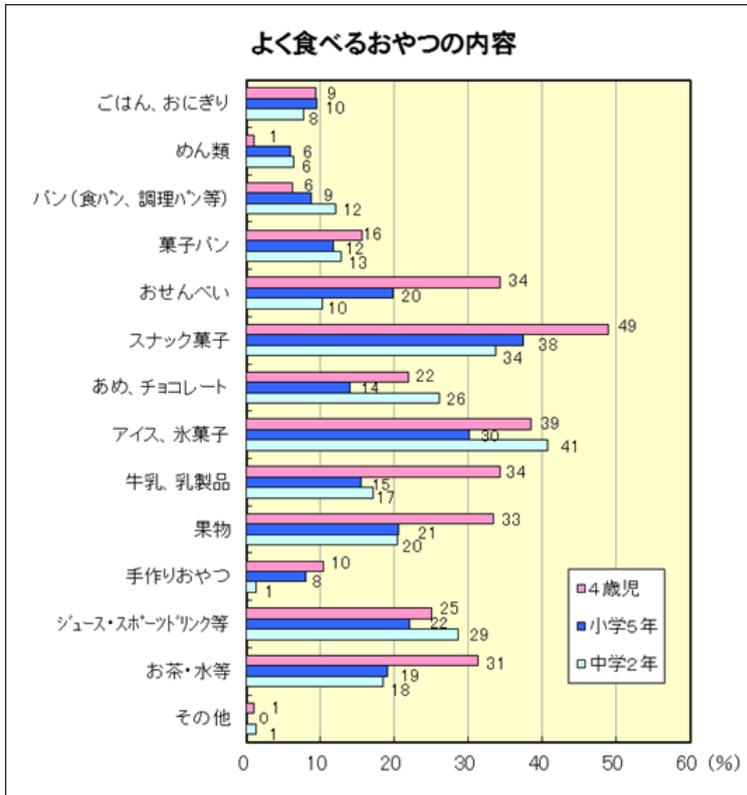


おやつを「1日に2回以上食べる」と回答したのは、4歳児23%、小学5年生11%、中学2年生4%である。

おやつには「補食」としての意味もあり、4歳児では1日1回のおやつが必要とされているが、必要以上のおやつはむし歯や肥満につながるため、回数や内容については注意が必要である。



おやつを食べるのは「学校から帰ってすぐ」が、小学5年生53%、中学2年生51%と、最も多く回答している。中学2年生は、小学5年生よりも、「夕食前」、「夕食後」が多くなっている。

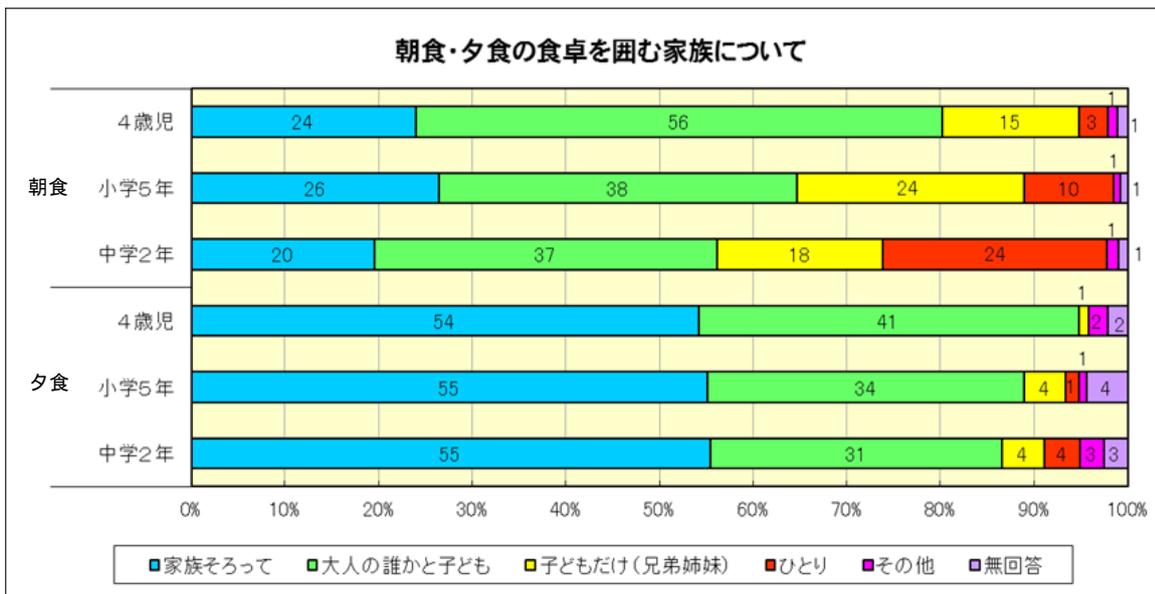


間食の内容は、年齢に関係なく、「スナック菓子」、「アイス、氷菓子」がよく食べるおやつであると回答している。また、ジュース・スポーツドリンク等の回答も多い。

その他に4歳児では、「おせんべい」「牛乳・乳製品」「果物」をよく食べている。

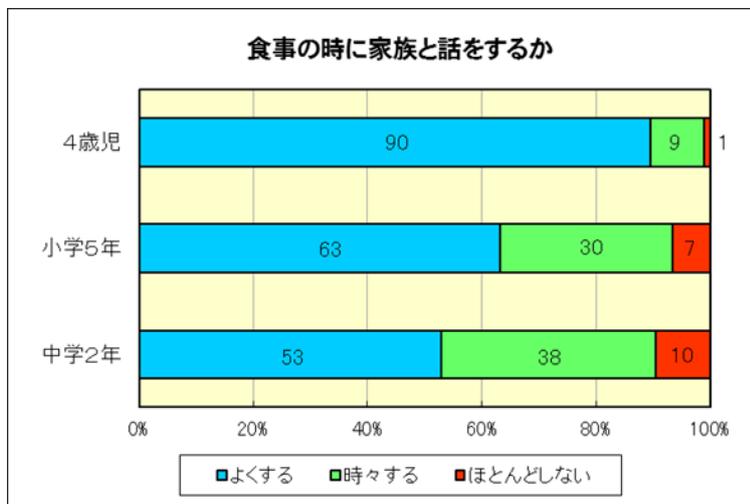
おやつの摂取状況より、不規則なおやつ(間食)の摂取は、食事をきちんと食べない原因になったり、むし歯や肥満の原因にもなってしまうため、どの年齢においても、望ましいおやつ(間食)の内容、量、回数等を周知していく必要がある。

(6)朝食・夕食の食卓を囲む家族について



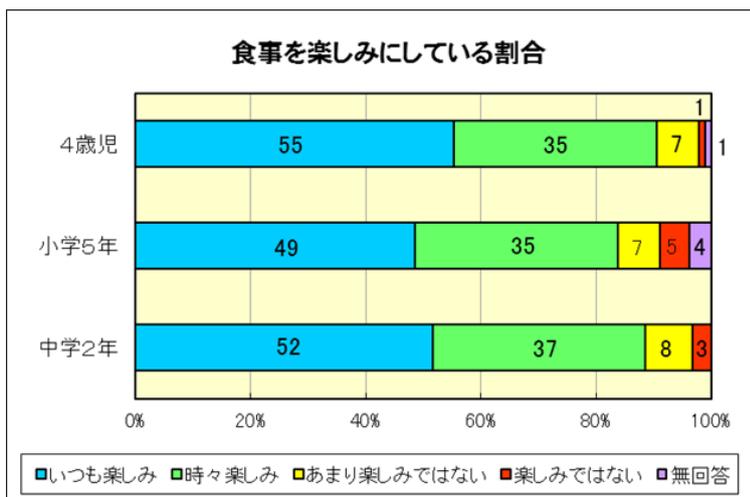
「家族そろって食べている」と回答したのは夕食に多く、約55%である。朝食は「子供だけで食べる」、「ひとりで食べる」が、年齢とともに増加し、朝食は夕食に比べると、ひとりで食べている割合が高くなっている。中学2年生においては24%、4人に1人の生徒がひとりで朝食を食べているという状況である。

(7) 食事の時に家族と話をする割合



食事の時に家族と話を「よくする」と回答したのは、4歳児90%、小学5年生63%、中学2年生53%と、年齢が上がるにつれて、食事の時に家族と話をする割合が減っている。中学2年生では10%が、ほとんど会話をしないという回答であった。

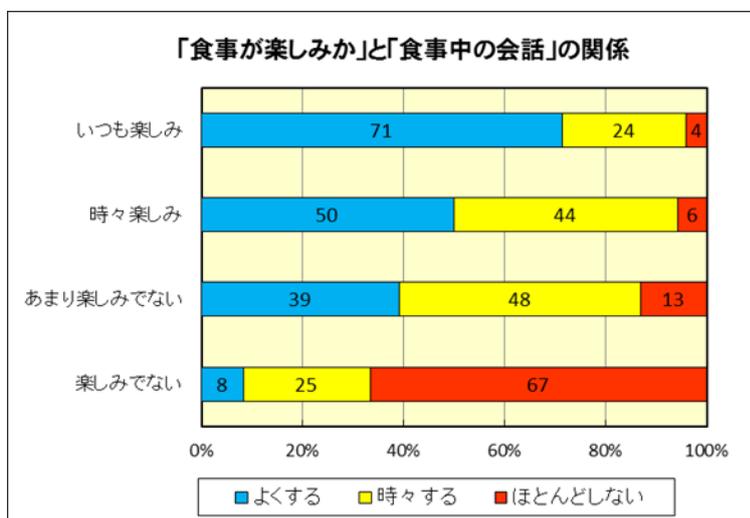
(8) 食事を楽しみにしている割合



食事を「いつも楽しみ」と回答したのは4歳児55%(保護者から見た回答)、小学5年生49%、中学2年生52%と、約半数の子どもはいつも楽しみにしているとの回答であった。

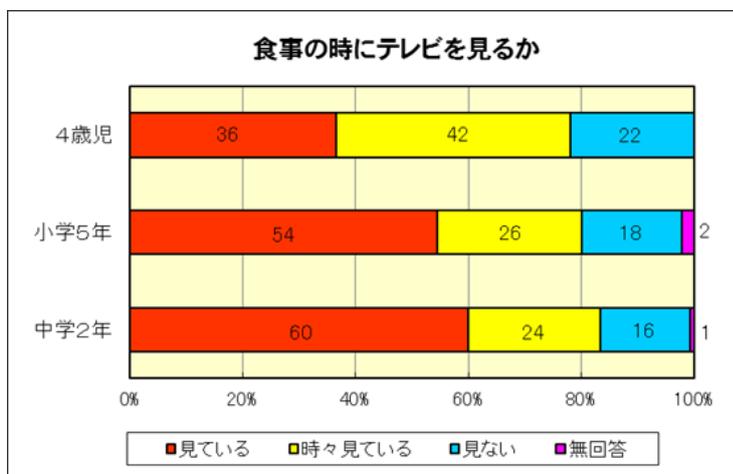
「あまり楽しみでない」と回答した4歳児が前回調査は1%で、今回は7%に増加した。逆に中学生では前回調査の12%から8%に減少している。

(9) 「食事が楽しみか」と「食事の時に家族と話をするか」の関係



食事の時間が「いつも楽しみ」「時々楽しみ」と回答している人に比べ、「あまり楽しみではない」「楽しみではない」人は、食事時の家族との会話が少なくなっている。

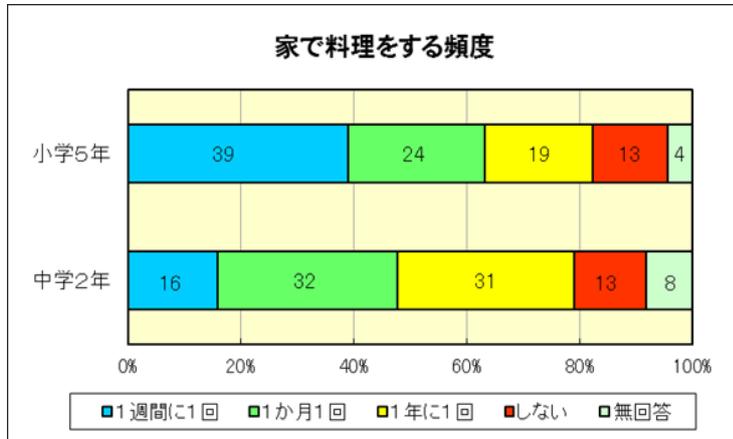
(10) 食事の時にテレビを見ている割合



食事の時にテレビを「見ている」割合は、小学5年生54%(前回調査より13ポイント減)、中学2年生60%(同2ポイント減)と、見ている割合は減少傾向にあるも、半数以上がテレビを見ながら食事をしている。4歳児は前回調査と比較し、5ポイント減少し、36%であった。

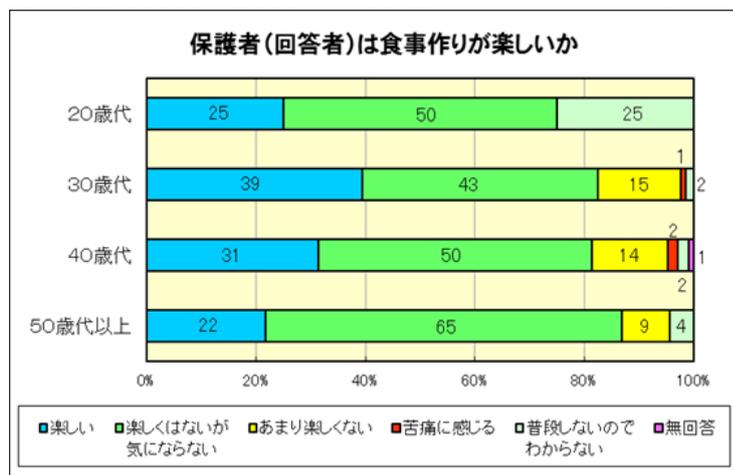
(6)~(10)より、子どもの習い事や部活動、親の仕事等の関係で、家族そろった食事をするのは大変である家庭も多いと思われるが、食事は家族のコミュニケーションを図る場として、また食事のマナーや食に関する知識を得る場として大切だということを啓発していく必要がある。
食事があまり楽しみでないという原因には、偏食や弧食などが影響していると考えられる。またテレビを見ながら食事をしている家庭も多く、食事は楽しいと思えるような環境を整えることが大切である。

(11) 家で料理をする頻度



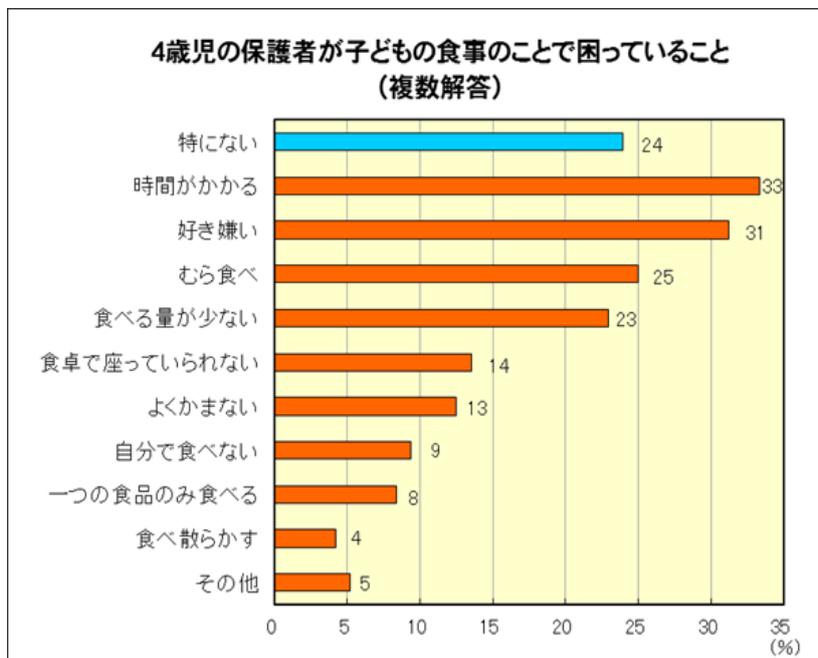
家で「料理をしない」と回答したのは、小学5年生、中学2年生ともに13%である。
「1週間に1回料理をする」と回答したのは、小学5年生が約39%(前回調査より9ポイント増)、中学2年生が16%(同14ポイント減)であった。塾や部活等で忙しい中で、料理をする機会が少なくなっている可能性が伺われる。

(12) 保護者(回答者)の食事作りに対する意識



食事作りが「楽しい」と回答した割合は 20歳代を除き、年代が上がるに伴い減少している。「あまり楽しくない」「苦痛を感じる」と回答した割合は30歳代、40歳代に多く、それぞれ16%であった。
保護者の食に対する意識は、子どもへの食育にも影響することから、保護者に対し、食事作りが楽しいと感じる事ができるような支援をしていく必要がある。

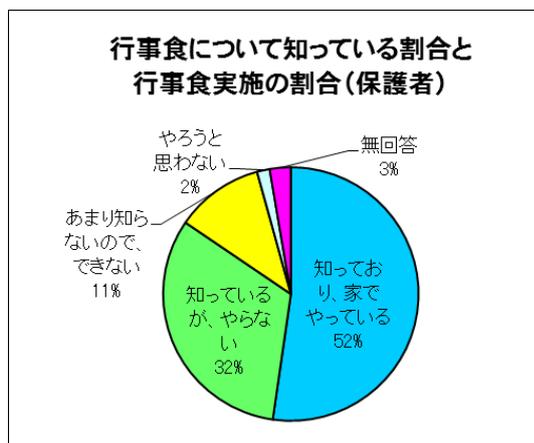
(13) 4歳児の保護者が子どもの食事のことで困っていること



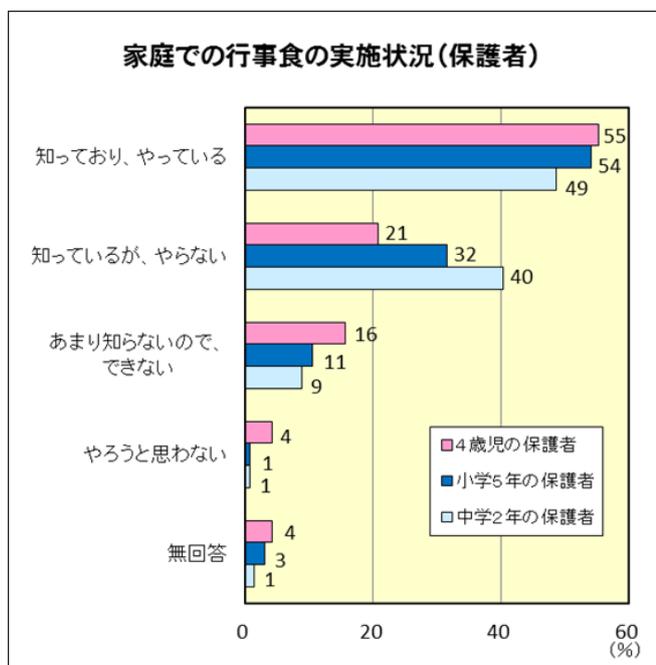
4歳児の保護者のうち24%は「食事の事で困っていることは特にない」と回答した。残り76%は「困っていることがある」と回答し、なかでも「時間がかかる」「好き嫌い」が多くの保護者が困っている事として挙げられていた。

<行事食・郷土料理について>

(1) 行事食の実施状況(保護者)



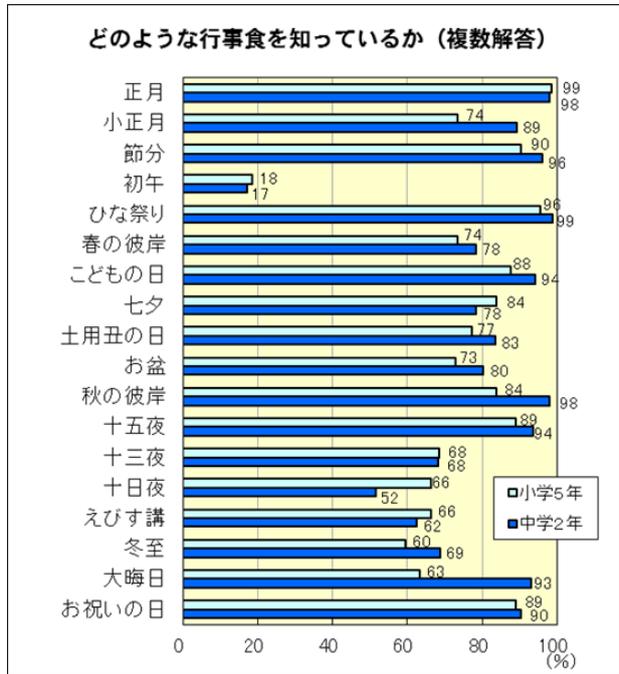
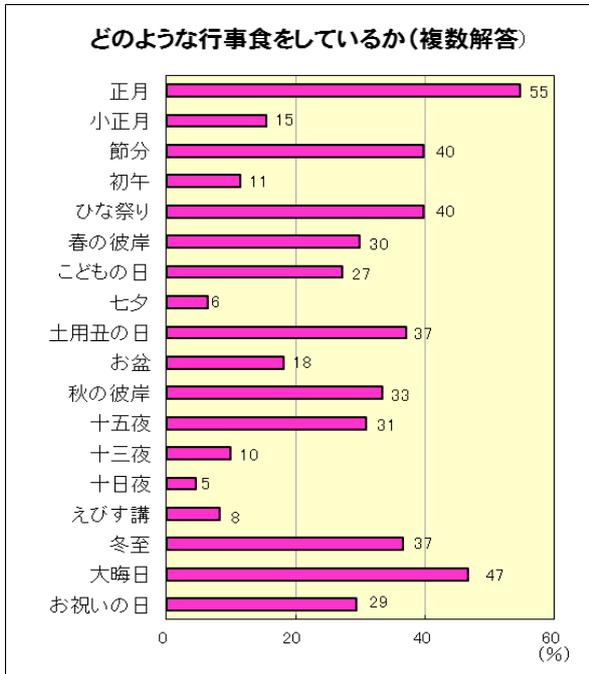
行事食を「知っているが、家でやっている」と回答した保護者の割合は52%で、前回調査と比較して9ポイント減少した。「知っているがやらない」など行事食を実施していない家庭の割合は、無回答も含めて48%であった。



家庭での行事食の実施状況は、子どもの年齢が上がるにつれて、「知っており、やっている」割合が減少し、「知っているが、やらない」割合が増加している。

(2)行事における行事食の実施(保護者)

(3)行事食の認知度(子ども)

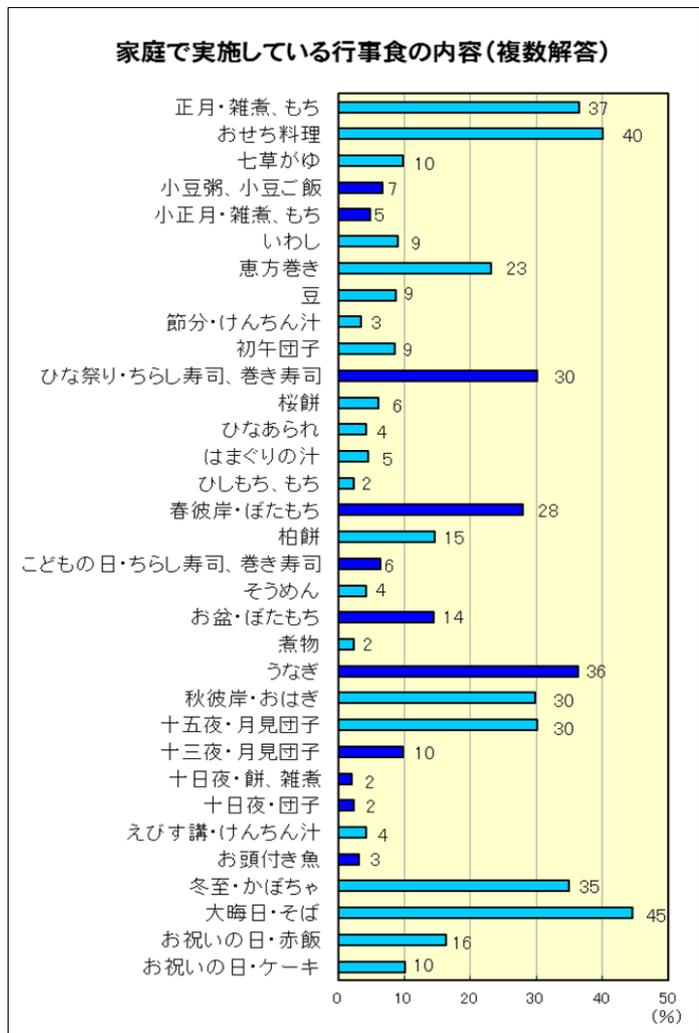


(4)家庭で実施している行事食の内容(保護者)

※8人以上の回答があったもの

(複数回答)

行事	行事食	人数(人)
正月	正月・雑煮、もち	137
	おせち料理	150
	七草がゆ	37
小正月	小豆粥、小豆ご飯	25
	小正月・雑煮、もち	18
節分	いわし	34
	恵方巻き	87
	豆	33
初午	節分・けんちん汁	13
ひな祭り	初午団子	32
	ひな祭り・ちらし寿司、巻き寿司	113
	桜餅	23
	ひなあられ	16
春の彼岸	はまぐりの汁	17
	ひしもち、もち	9
	春彼岸・ぼたもち	105
	柏餅	55
こどもの日	こどもの日・ちらし寿司、巻き寿司	24
	七夕	そうめん
お盆	お盆・ぼたもち	54
	煮物	9
土用丑の日	うなぎ	136
秋の彼岸	秋彼岸・おはぎ	112
十五夜	十五夜・月見団子	113
十三夜	十三夜・月見団子	37
十日夜	十日夜・餅、雑煮	8
	十日夜・団子	9
えびす講	えびす講・けんちん汁	16
	お頭付き魚	12
冬至	冬至・かぼちゃ	131
大晦日	大晦日・そば	167
お祝いの日	お祝いの日・赤飯	61
	お祝いの日・ケーキ	38

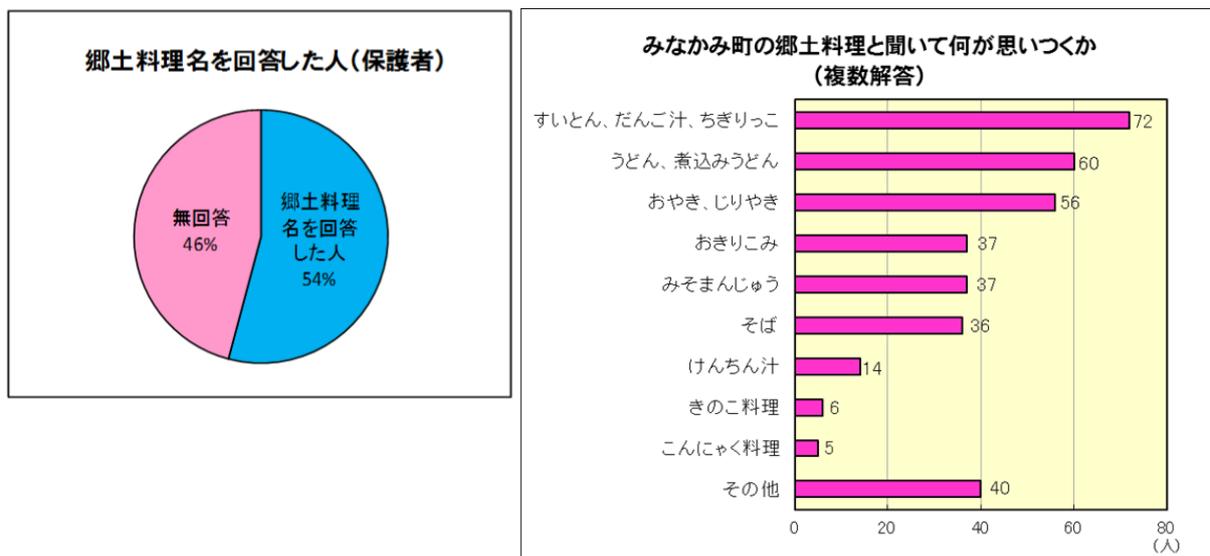


家庭で実施している行事食は「正月」「大晦日」の回答が多かった。その他の行事は、40%前後の割合で実施しているものが多かった。

行事食の認知度は、ほぼ全ての行事に対して60%を超える小学5年生、中学2年生が「知っている」と回答していた。また、小学5年生より中学2年生の方が上回っていた。

行事食は、季節によって収穫される作物を知り、四季の移り変わりのある日本の暮らしを実感させてくれるものである。土地の気候や風土に根ざした旬の食材を使い、美味しく食べる工夫を重ね、長い歴史の中で培われ、引き継がれてきた行事食を伝えていくことが大切である。

(5)みなかみ町の郷土料理について(保護者)

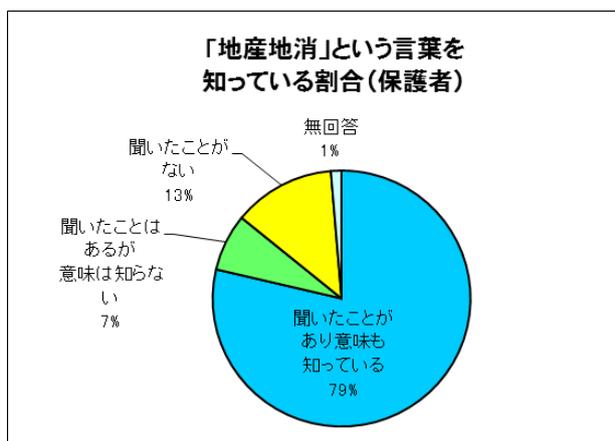


郷土料理名を回答した人は54%と約半数であり、前回調査の48%に比較し6ポイント増加した。郷土料理と聞いて思いつく料理は、「すいとん、だんご汁、ちぎりっこ」などの回答が多く、次に「うどん、煮込みうどん」「おやき、じりやき」が多く回答されていた。

郷土料理名を回答した人の割合は、前回調査に比べ増加はしているが、郷土料理に対する若い世代の認知度は低いと考えられる。みなかみ町にある郷土料理を発掘し、郷土に伝わる食文化を伝承して行くことが必要である。

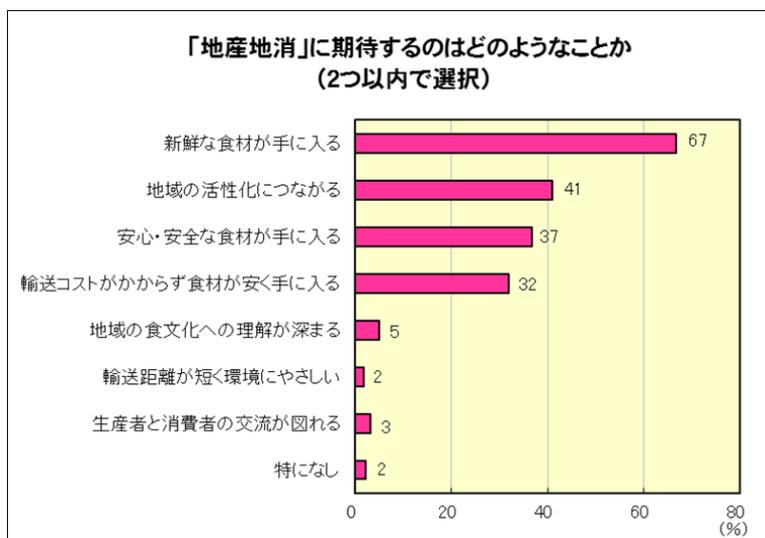
<地産地消について>

(1)「地産地消」という言葉を聞いたことがあるか(保護者)



「地産地消」という言葉を「聞いたことがあり意味も知っている」と回答した保護者は79%で、前回調査より9ポイント増加しており、地産地消が周知されてきている状況がうかがわれる。

(2)「地産地消」に期待することは(保護者)

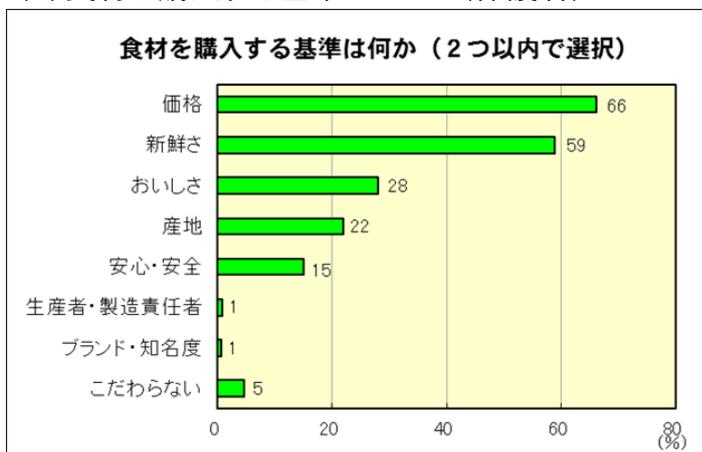


保護者が「地産地消」に期待することは、「新鮮な食材が手に入る」、「地域の活性化につながる」、「安心・安全な食材が手に入る」の順に多くなっている。

近年、食をめぐる多くの問題から、食品や農産物への安全、安心志向が高まっている。地産地消は、地場産品の消費の拡大だけでなく、生産者との交流、旬や食文化への理解、食糧自給率の向上、食の安心・安全、地域の活性化など、様々な役割を持っている。

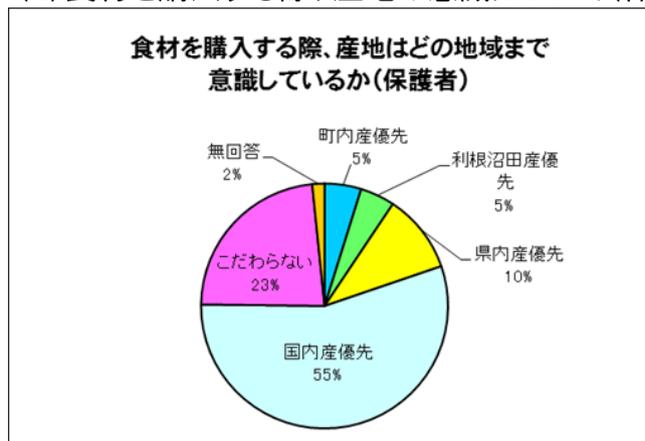
また、給食における地産地消も推進されている。これは生産者とのコミュニケーションを伴った活動であることから、意思疎通を十分図りながら、関係者が一体となって進めていく必要がある。

(3)食材を購入する基準について(保護者)



保護者が食材を購入する基準は、「価格」「新鮮さ」「おいしさ」の順に多く回答している。

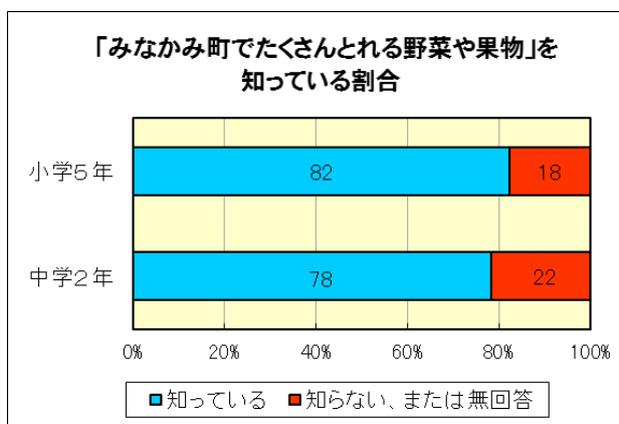
(4)食材を購入する際、産地の意識について(保護者)



保護者が食材を購入する際の産地の意識は「国内産優先」が55%と最も多い回答である。町内産から国内産までの回答を合わせると75%である。

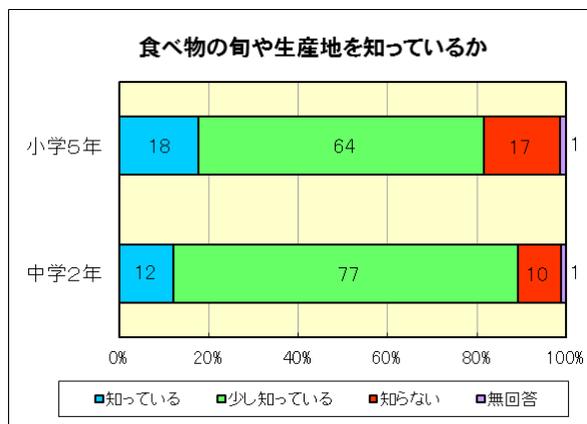
逆に、産地は「こだわらない」と回答した割合は23%である。

(5)みなかみ町でとれる野菜や果物について



みなかみ町でとれる野菜や果物を「知っている」と回答したのは、小学5年生で82%(前回調査より9ポイント増)、中学2年生で78%(同3ポイント増)であった。

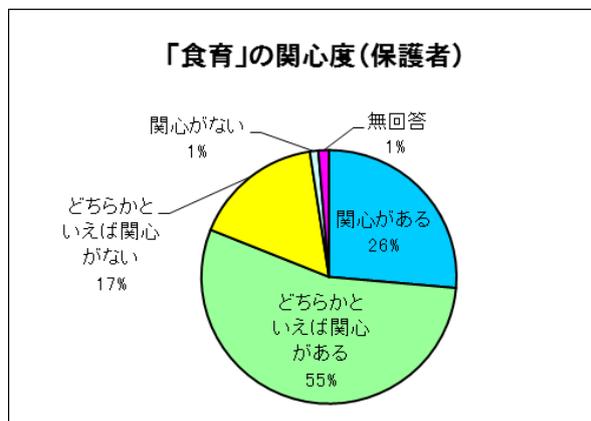
(6)食べ物の旬や生産地について



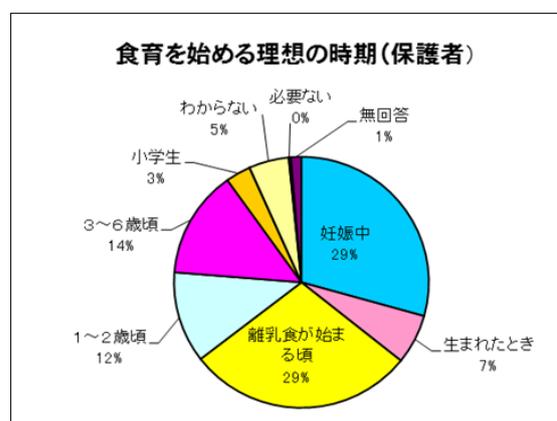
食べ物の旬や生産地について「知っている」、「少し知ってる」と回答したのは、小学5年生82%(前回調査より2ポイント増)、中学2年生89%(同9ポイント増)であった。

<食育について>

(1)「食育」に関心があるか



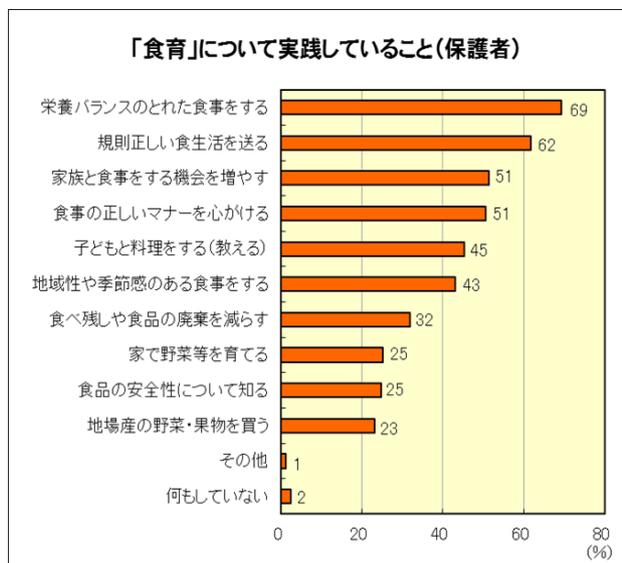
(2)「食育」はいつ頃から始めるのが良いか



保護者の食育の関心度については、前回調査とほぼ同様であるが、「関心がある」が4ポイント減、「どちらかといえば関心がある」が5ポイント増となっており、関心度はやや浅くなっていることが考えられる。

食育を始める時期は、「妊娠中」「生まれたとき」「離乳食が始まる頃」と合わせると65%であり、早い時期から「食育」の必要性を感じている回答が多い。教育機関、保健機関、地域などと連携を取り、食育を進めていく必要がある。

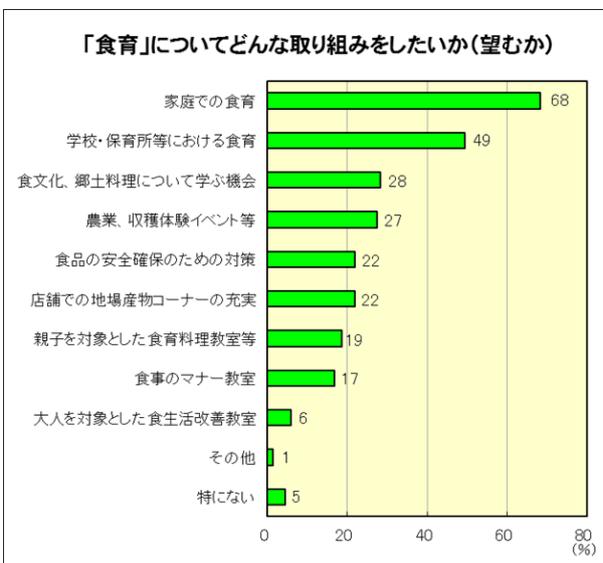
(3)「食育」について実践していること



保護者が「食育」について実践していることは「栄養バランスのとれた食事をする」との回答が最も多く69%、次いで「規則正しい食生活を送る」が62%であった。

その他、家族と食事をする機会を増やしたり、食事の正しいマナーを心がけたり、また、子どもと料理をするなど、家庭における食育に重点を置いている回答が多い。

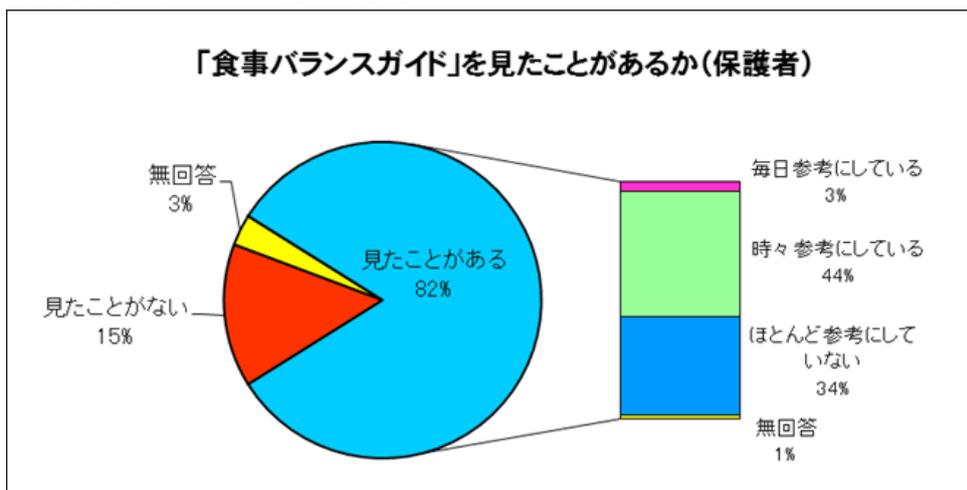
(4)「食育」について望む取り組み



保護者が「食育」について取り組みたいことは、「家庭での食育」が最も多く68%、次いで「学校・保育所等における食育」が49%であった。

「食育」には様々な取り組みがあるので、関係機関で連携をとり、実践していくことが必要である。

(5)食事バランスガイドの利用について



食事バランスガイドを「見たことがある」と回答した人は82%である。そのうち、「毎日参考になっている」と回答した人は3%、「ときどき参考になっている」を合わせると47%となっており、食事バランスガイドの活用は十分とは言えないことがうかがえた。

現在、多様な食生活を送ることができるようになった反面、食に関する情報が氾濫しており、誤った情報の選択により健康を損ねてしまう事例も発生している。このため、具体的な食品をどのように組み合わせるか等の判断の参考とするため、食事バランスガイド等の食事に関する指針を普及することが必要である。

資料2 特定健診結果

(1) 特定健診受診率

	特定健診対象者 (人)	特定健診受診者 (人)	特定健診受診率 (%)
H25年度	4,848	1,901	39.2
H26年度	4,619	1,771	38.3

特定健診の受診率は、平成25年度は39.2%、平成26年度は38.3%であった。平成25年度市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況概況による、受診率の全国平均は34.3%であり、みなかみ町の受診率は平均を上回っている。

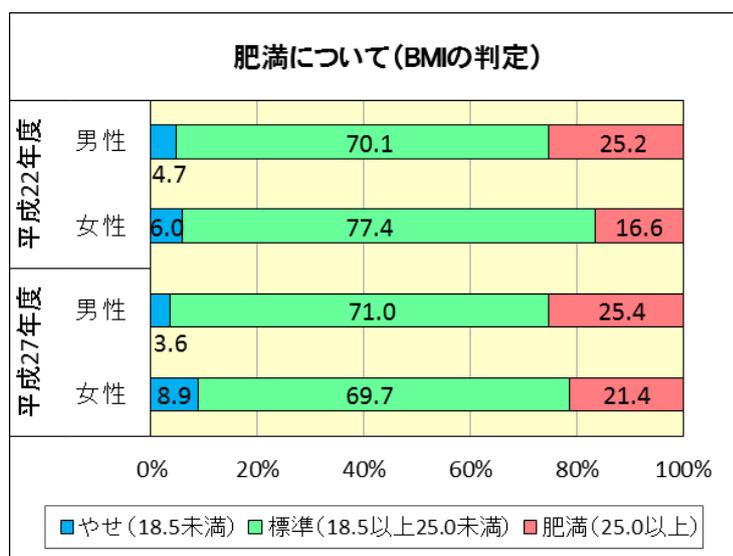
しかし、健康日本21で国が目標としている受診率は65%であり、20%以上のひらきがある。疾病等を予防または早期に発見し、治療につなげるためにも、健診を受けることは大切である。今後も、健診の必要性を周知していくことが必要である。

(2) メタボリックシンドローム該当者

	メタボリックシンドローム 該当者		メタボリックシンドローム 予備軍	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
H25年度	283	14.9	213	11.2
H26年度	251	14.2	190	10.7

平成26年度のメタボリックシンドローム該当者は14.2%、予備軍は10.7%であった。平成25年度市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況概況による、全国のメタボリックシンドローム該当者は16.4%、予備軍は10.7%であり、みなかみ町は該当者数・予備軍数とも全国平均を下回っている。

(3) 肥満について(BMIの判定)



平成27年度の特健健診結果では、男性の25.4%、女性の21.4%が肥満であった。(平成2年度群馬県民健康・栄養調査における肥満者の割合については、4ページ参照)

肥満は食事・飲酒・運動等の生活習慣が大きく影響している。肥満は生活習慣病の温床ともいわれている。自分の適正体重を知り、肥満を予防することが必要である。

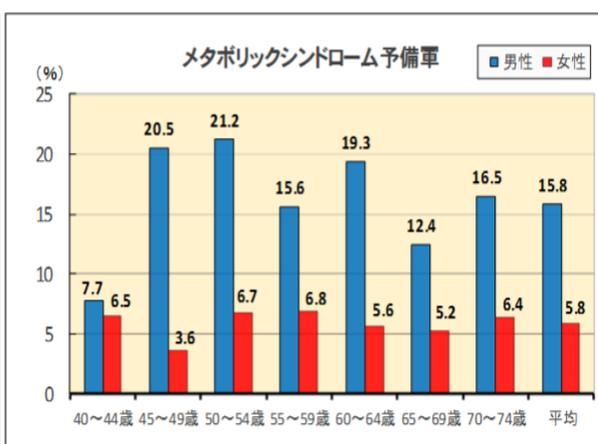
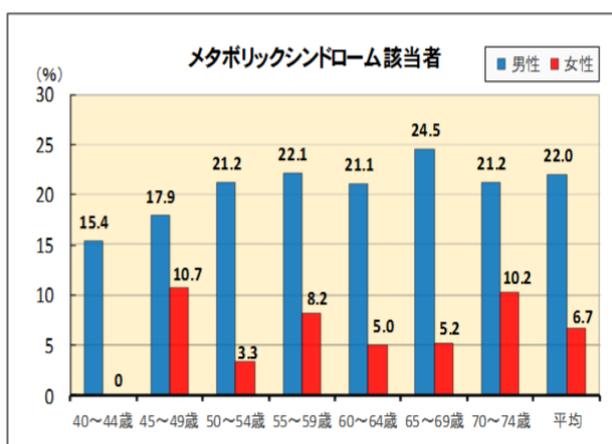
(4) 年齢・性別の疾病状況の割合

(%)

男性	メタボリックシンドローム該当者	メタボリックシンドローム予備軍	高血圧	脂質異常	糖尿病
40～44歳	15.4	7.7	0	3.8	0
45～49歳	17.9	20.5	2.6	7.7	2.6
50～54歳	21.2	21.2	21.2	5.8	1.9
55～59歳	22.1	15.6	14.3	11.7	10.4
60～64歳	21.1	19.3	34.9	11.4	8.4
65～69歳	24.5	12.4	42.0	16.8	9.5
70～74歳	21.2	16.5	43.3	12.6	7.8
平均	22.0	15.8	34.2	12.7	7.9

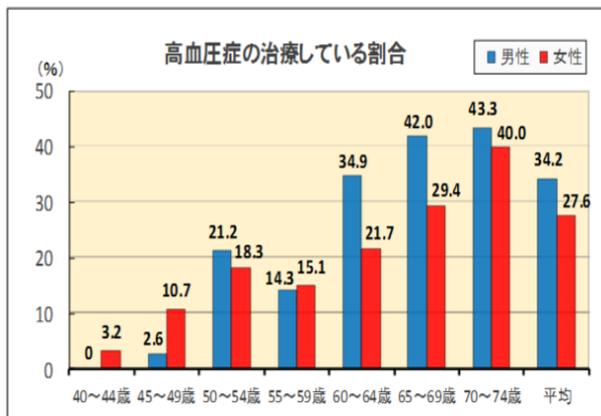
(%)

女性	メタボリックシンドローム該当者	メタボリックシンドローム予備軍	高血圧	脂質異常	糖尿病
40～44歳	0	6.5	3.2	9.7	3.2
45～49歳	10.7	3.6	10.7	3.6	0
50～54歳	3.3	6.7	18.3	13.3	5.0
55～59歳	8.2	6.8	15.1	19.2	4.1
60～64歳	5.0	5.6	21.7	20.0	2.2
65～69歳	5.2	5.2	29.4	21.9	3.7
70～74歳	10.2	6.4	40.0	26.8	4.5
平均	6.7	5.8	27.6	21.2	3.6

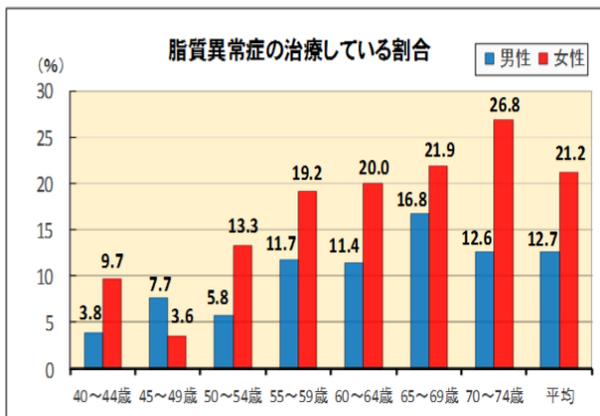


メタボリックシンドローム該当者は、全ての年代において、女性より男性に多い。男性は年齢とともに増加し、65～69歳が最も該当者数が多い。女性は45～49歳に該当者が最も多い。

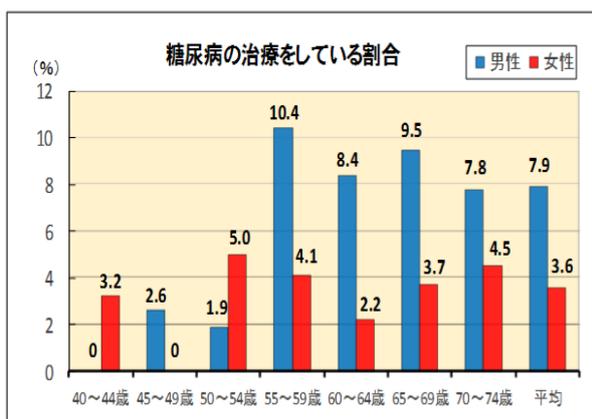
メタボリックシンドローム予備軍も該当者と同様、男性に多い。年代では45～54歳に多い。



高血圧症の治療をしている割合は、ほぼ年齢とともに増加している。女性より男性に多く、総数で見ると、男性は3人に1人は高血圧症である。70歳以上では男女ともに約4割が高血圧症である。



脂質異常症の治療をしている割合も、ほぼ年齢とともに増加している。男性より女性に多く、総数で見ると、女性は5人に1人、なかでも70歳以上の女性では、4人に1人が脂質異常症である。



糖尿病の治療をしている割合は、55歳以上の男性に多く、総数で見ると、男性は女性の2倍以上である。

メタボリックシンドロームや生活習慣病を予防、改善するため、今後も健康教室の実施や、運動習慣の普及啓発をし、健康の自己管理ができるよう支援していく必要がある。

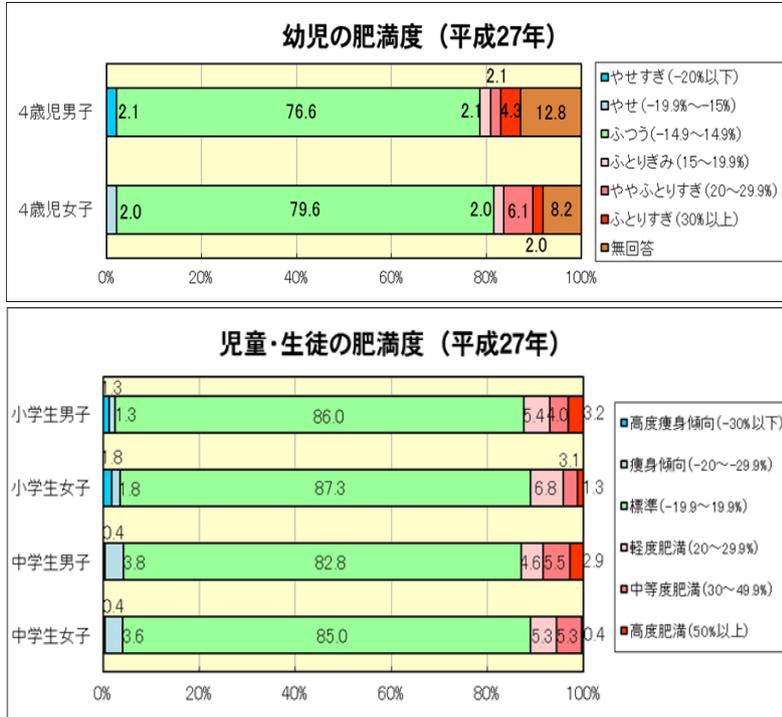
(5) 特定保健指導対象者・利用者

	積極的支援				動機付け支援			
	該当者 (人)	割合 (%)	利用者 (人)	割合 (%)	該当者 (人)	割合 (%)	利用者 (人)	割合 (%)
H25年度	87	4.6	1	1.1	157	8.3	8	5.0
H26年度	66	3.7	2	3.0	167	9.4	21	12.6

特定健診受診者のうち、特定保健指導該当者は、平成25年度は12.8%、平成26年度は13.2%である。

資料3 子どもの肥満とむし歯の状況

(1) 子どもの肥満



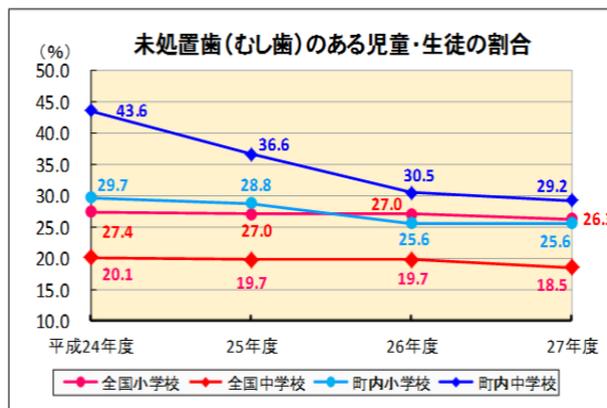
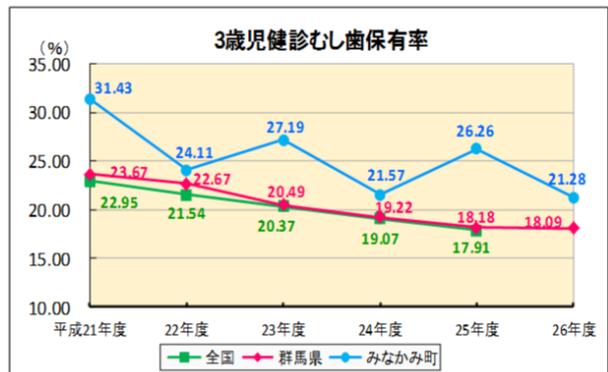
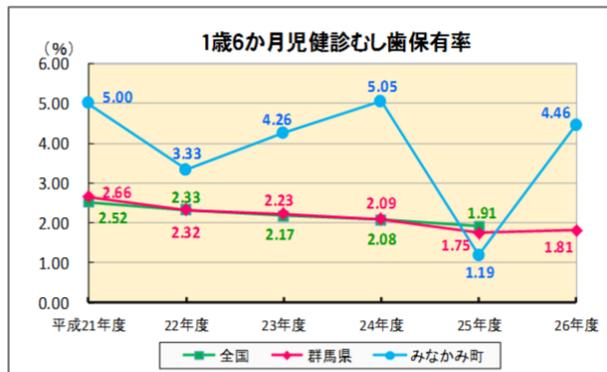
4歳児は女子にやや肥満傾向児が多く、10.1%である。

児童・生徒は男子にやや肥満が多く、小学生男子は12.6%、中学生男子は13.0%が肥満である。

特に幼児については、平成26年度群馬県の幼稚園5歳児の肥満度20%以上の割合は、男子3.30%、女子2.99%となっており、みなかみ町4歳児の同割合(男子6.4%、女子8.1%)比較すると、みなかみ町はかなり高い値と言える。

子どもの頃からの肥満は、メタボリックシンドロームや生活習慣病につながりやすいので、自分の適正体重を知り、正しい生活習慣を身につけ、肥満を予防することが大切である。また痩せ願望による極端なダイエットの健康への影響等も周知していく必要がある。

(2) 子どものむし歯



1歳6か月児のむし歯保有率は、全国・群馬県より高い値で推移している。3歳児のむし歯の保有率は、年々減少傾向にあるが、全国や群馬県の平均に比べると高い値となっている。

みなかみ町の1人あたりの虫歯の本数は、1歳6か月児で0.10本、3歳児で1.04本となっている(平成26年度)。

(全国乳幼児歯科健診結果、母子保健事業報告(群馬県)より)

児童・生徒におけるむし歯の割合も、年々減少傾向にある。小学生は全国平均に近い値であるが、中学生は全国平均よりかなり高い値であり、平成27年度においても10.7ポイント高くなっている。

(小中学校定期健康診断結果より)

資料4 食についてのアンケート調査用紙

食についてのアンケート【小学生・中学生用】



このアンケート調査は、みなさんがどのような食生活をしているかを知り、みなかみ町が望ましい食生活のありかたを考えるための資料とするものです。それ以外のことには使いませんので、ありのままを正確に教えてください。

ご記入にあたっての おねがい

◆記入方法

- それぞれの質問に対して、あてはまる答えの番号に○をつけてください。
- 具体的な内容を答える場合は、() の中に書いてください。
- 答えは、鉛筆ではっきりと分かりやすく書いてください。

平成27年9月
みなかみ町役場子育て健康課

出席番号	
------	--

★ あなたの性別に○をつけてください。

男	女
---	---

※下の欄は記入しないでください。

身長： _____ cm	体重： _____ kg
--------------	--------------

以下の質問に答えてください。



問1 あなたと一緒に住んでいる人、全員に○印をつけてください。

- | | | |
|------|----------|---------|
| 1. 父 | 3. おじいさん | 5. 兄弟姉妹 |
| 2. 母 | 4. おばあさん | 6. その他 |

問2 あなたは、家ではごはんをだれと一緒に食べる時が多いですか。(①、②それぞれ1つずつ数字に○印をつけてください)

	家族そろって	大人の誰かと 子ども	子どもだけ (兄妹・姉妹)	ひとり	その他
① 朝ごはん	1	2	3	4	5
② 夕ごはん	1	2	3	4	5

問3 あなたは、朝ごはんを食べますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 毎日食べる | 3. 週に3～4日食べない |
| 2. 週に1～2日食べない | 4. ほとんど食べない |

問4 あなたは、おやつを食べますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|-------------|
| 1. 毎日2回以上食べる | 3. 週に3～5日食べる | 5. ほとんど食べない |
| 2. 毎日1回くらい食べる | 4. 週に1～2日食べる | |

問5 「問4」で「1～4」に○をつけた人は、いつ食べるのか、当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。

- | | | |
|--------------|-----------|--------|
| 1. 学校から帰ってすぐ | 3. 夕ごはんの後 | 5. その他 |
| 2. 夕ごはんの前 | 4. ねる前 | () |

問6 「問4」で「1～4」に○をつけた人は、よく食べたり、飲んだりするおやつは何ですか。よく食べるものを3つ以内で選んで○印をつけてください。

1. ごはん、おにぎり	8. アイスクリーム・氷菓子
2. めん類(カップめん類をふくむ)	9. 牛乳、ヨーグルト、チーズなど
3. パン(食パン、サドイッチ、 halvag- など)	10. くだもの
4. 菓子パン(あんぱん、メロンパンなど)	11. 手作りのおやつ
5. おせんべい	12. ジュース、スポーツドリンクなど
6. スナック菓子	13. お茶や水など甘くない飲み物
7. あめ、チョコレート	14. その他:()

問7 あなたは家での食事の時間が楽しみですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|---------------|
| 1. いつも楽しみ | 3. あまり楽しみではない |
| 2. 時々楽しみ | 4. 楽しみでない |



問8 あなたは食事の時に、家族と話をしますか。(○は1つ)

1. よくする 2. 時々する 3. ほとんどしない

問9 あなたは食事の時にテレビを見ますか。(○は1つ)

1. 見ている 2. 時々見ている 3. 見ない

問10 あなたの好きな料理、または食品は何ですか。3つ以内で書いてください。

() () ()

問11 あなたはきれいな料理、または食品がありますか。ある人は3つ以内で書いてください。

() () ()

問12 あなたは家で料理をしますか。(○は1つ)

1. 1週間に1回以上する 3. 1年に1回以上する
2. 1か月に1回以上する 4. しない

問13 「行事食」にはどんなものがあるか知っていますか。下記の**カッコ内の行事食**のうち**知っているものにすべて○印**をつけてください。その他、知っているものがありましたら、下に記入してください。

正月(おせち料理/雑煮/七草がゆ)	こどもの日(柏もち)	十日夜(もち)
小正月(あずきがゆ/もち/まゆ玉)	七夕(そうめん)	えびす講(けんちん汁)
節分(大豆/いわし/恵方巻き)	土用丑の日(うなぎ)	魚(頭付き)
初午(初午だんご)	お盆(ぼたもち)	冬至(かぼちゃ)
ひな祭り(ちらし寿司/桜もち)	秋のお彼岸(おはぎ)	大みそか(そば)
/ひなあられ/はまぐりのすまし汁)	十五夜(月見だんご/芋)	お祝いの日(お赤飯)
春のお彼岸(ぼたもち)	十三夜(だんご/豆/粟)	

その他：

問14 「みなかみ町でたくさんとれる野菜や果物」を知っていますか。

(知っている人は3つ以内で記入)

() () ()

問15 あなたは、ふだん食べている食べ物の旬(よくとれて、おいしい季節)や生産地(とれる場所)などを知っていますか。

1. 知っている 2. 少し知っている 3. 知らない

以上で質問は終わります。ご協力ありがとうございました。



小学5年生・中学2年生の保護者様

食に関するアンケート【保護者用】



平成27年9月 みなかみ町

みなかみ町では、皆さんに健康で豊かな生活を送っていただくことをめざして、食育の推進に取り組んでいます。

つきましては、食に関するアンケートを実施し、今後の食育推進計画や食育施策の参考としたいと考えております。

ご回答内容は、コンピュータによる統計処理を行い、調査目的以外に使用することは一切ありません。

ご多忙とは存じますが、趣旨をご理解の上、ご回答下さいますようお願い申し上げます。

ご記入にあたっての お願い

1 記入者

- 小学5年生・中学2年生の保護者の方がご記入ください。

2 記入方法

- 回答は、原則、番号に○印をつける方法です。あなたのお考えに最も近い番号に○印をつけてください。
- それぞれの設問で指定された数の○印をつけてください。
- 自由記入の設問については、お手数ですが具体的な内容を文字でご記入ください。
- 回答後に、記入もれや記入ミスがないようご確認ください。

3 提出

- ご記入が終わりましたら

10月2日(金)までに学校の担任の先生へご提出ください。

4 お問い合わせ

- 本調査について、不明な点やご質問などがありましたら、下記までご連絡ください。

みなかみ町役場子育て健康課
TEL 62-2527 (ダイヤルイン)

◎「食育」とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選ぶ力を身につけ、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。

あなた自身(保護者の方)とご家族についておたずねします。



問1 あなた(保護者)の性別をお答えください。(〇は1つ)

1. 男 2. 女

問2 あなたの年齢を教えてください。(〇は1つ)

- 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳以上

問3 お子様(小学5年生・中学2年生)と一緒に住んでいる方全員に〇印をつけてください。
(お子様からみた続柄でお答えください)

1. 父 3. 祖父 5. 兄弟姉妹
2. 母 4. 祖母 6. その他

問4 主にお子様(小学5年生・中学2年生)の食事作りは誰がしていますか。(〇は1つ)
(お子様からみた続柄でお答えください)

1. 父 3. 祖父 5. 兄弟姉妹 7. その他
2. 母 4. 祖母 6. 本人

問5 あなた(保護者)は食事作りが楽しいですか。(〇は1つ)

1. 楽しい 4. 苦痛を感じる
2. 楽しくはないが気にならない 5. 普段しないのでわからない
3. あまり楽しくない

問6 あなた(保護者)は朝ご飯を食べますか。(〇は1つ)

1. 毎日食べる 3. 週に3~4日食べない
2. 週に1~2日食べない 4. ほとんど食べない

問7 「問6」で「2・3・4. 食べない」と回答した方へお聞きします。朝ご飯を食べない理由は何ですか。(〇は1つ)

1. 食べる時間がない 4. 食べる習慣がない
2. 作るのが面倒 5. ダイエットのために食べない
3. 食欲がない 6. その他()

問8 あなた(保護者)は、**野菜や海草類のおかず**を食べますか。(〇は1つ)

1. 毎食食べる 4. 週に3~5回くらい食べる
2. 1日2食は食べる 5. 週に1~2回くらい食べる
3. 1日1食は食べる 6. ほとんど食べない

問9 「問8」で「2・3・4・5」と回答した方へお聞きします。野菜や海草類のおかずを食べないのは主にいつですか。(〇はいくつでも可)

1. 朝食 2. 昼食 3. 夕食

問10 お子様(小学5年生・中学2年生)は、**給食以外の食事**(朝食・夕食)で**野菜や海草類のおかず**を食べますか。(〇は1つ)

1. 毎食食べる 4. 週に1~2回くらい食べる
2. 1日1食は食べる 5. ほとんど食べない
3. 週に3~5回くらい食べる

農産物、郷土料理についての質問です。



問11 「みなかみ町の農産物」と聞いて何が思いつきますか。(3つ以内で具体的に記入)

() () ()

問12 「みなかみ町の郷土料理」と聞いて何が思いつきますか。(3つ以内で具体的に記入)

() () ()

問13 食材を購入する基準は何ですか。(〇は2つ以内)

- | | | |
|---------|-------------|--------------|
| 1. 価格 | 4. 産地 | 7. 生産者・製造責任者 |
| 2. 新鮮さ | 5. 安心・安全 | 8. こだわらない |
| 3. おいしさ | 6. ブランド・知名度 | |

問14 食材を購入する際、産地はどの地域まで意識していますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-------------|----------|-----------|
| 1. みなかみ町産優先 | 3. 県内産優先 | 5. こだわらない |
| 2. 利根沼田産優先 | 4. 国内産優先 | |

問15 「地産地消」という言葉を聞いたことがありますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. 聞いたことがあり意味も知っている | 3. 聞いたことがない |
| 2. 聞いたことはあるが意味は知らない | |

「地産地消」とは、その地域でとれた食材を、その地域で消費することです。



問16 「地産地消」に期待するのはどのようなことですか。(〇は2つ以内)

- | |
|----------------------------|
| 1. 生産地との距離が近いので、新鮮な食材が手に入る |
| 2. 安心・安全な食材が手に入る |
| 3. 生産者と消費者の交流を図ることができる |
| 4. 輸送コストがかからないので、食材が安く手に入る |
| 5. 地域の食文化や伝統文化への理解が深まる |
| 6. 輸送距離が短いので、環境にやさしい |
| 7. 地域の活性化につながる |
| 8. 特になし |

問17 「行事食」とはどんなものか知っていますか。また家庭でやっていますか (○は1つ)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 知っており、家でやっている | 3. あまり知らないので、できない |
| 2. 知っているが、やらない | 4. やろうと思わない |

「行事食」とは、郷土に伝わる、特別な行事の時の食事のことです。
 (例：正月のおせち料理・お雑煮・七草がゆ、お祝いの日のお赤飯など)

問18 「問17」で「1. 知っており、家でやっている」と答えた方は、**どのような行事食をしていますか。**下記のうち、やっている行事に○印をつけ、カッコ内に**食べている行事食**を記入してください。また、その他にある場合は、**その他**の欄に記入してください。

行事 (行事食)		行事 (行事食)		その他	
				行事	行事食
正月 ()	お盆 ()				
小正月 ()	秋の彼岸 ()				
節分 ()	十五夜 ()			_____ []	
初午 ()	十三夜 ()			_____ []	
ひな祭り ()	十日夜 ()			_____ []	
春の彼岸 ()	えびす講 ()			_____ []	
こどもの日 ()	冬至 ()			_____ []	
七夕 ()	大晦日 ()			_____ []	
土用丑の日 ()	お祝いの日 ()			_____ []	

食育に関する質問です。



問19 あなた(保護者)は「食育」に関心がありますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 関心がある | 3. どちらかといえば関心がない |
| 2. どちらかといえば関心がある | 4. 関心がない |

問20 「食育」はいつ頃から始めるのが良いと思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------------|----------|--------|-----------|
| 1. 妊娠中から | 4. 1～2歳頃 | 7. 中学生 | 10. わからない |
| 2. 生まれた時から | 5. 3～6歳頃 | 8. 高校生 | 11. 必要ない |
| 3. 離乳食が始まる頃 | 6. 小学生 | 9. 成人 | |

問21 あなたが「食育」について実践している事は何ですか。当てはまる番号をすべて選んで、○をつけてください。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 栄養バランスのとれた食事をする | 7. 地域性や季節感のある食事をする |
| 2. 規則正しい食生活を送る | 8. 食品の安全性について知る |
| 3. 食べ残しや食品の廃棄を減らす | 9. 地場産の野菜・果物等を買う |
| 4. 家で野菜等を育てる | 10. 子どもと一緒に料理をする(教える) |
| 5. 家族と食事をする機会を増やす | 11. その他：() |
| 6. 食事の正しいマナーを心がける | 12. 何もしていない |

問22 あなたは「食育」についてどんな取り組みをしたいと思いますか（望みますか）。当てはまる番号をすべて選んで、○をつけてください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 家庭での食育 | 7. 店舗での地場産物コーナーの充実 |
| 2. 学校・保育所等における食育 | 8. 農業、収穫体験イベント等 |
| 3. 親子を対象とした食育料理教室等 | 9. 食文化、郷土料理について学ぶ機会 |
| 4. 大人を対象とした食生活改善教室 | 10. その他：
() |
| 5. 食事のマナー教室 | 11. 特になし |
| 6. 食品の安全確保のための対策 | |

問23 あなたは下に示したコマ型の「食事バランスガイド」を見たことがありますか。見たことがある人は、食事バランスガイドを参考に食事をしていますか。当てはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------|-------------------------------------------------|
| 1. 見たことがない | 1. 毎日参考にしている
2. 時々参考にしている
3. ほとんど参考にしていない |
| 2. 見たことがある … | |
| | |



以上で質問は終わりです。
お忙しいところご協力いただきまして、ありがとうございました。

幼稚園児および保育園児（年中組）の保護者 様

食に関するアンケート【幼児期用】



平成27年9月 みなかみ町

みなかみ町では、皆さんに健康で豊かな生活を送っていただくことをめざして、食育の推進に取り組んでいます。

つきましては、食に関するアンケートを実施し、今後の食育推進計画や食育施策の参考としたいと考えております。

ご回答内容は、コンピュータによる統計処理を行い、調査目的以外に使用することは、一切ありません。

ご多忙とは存じますが、趣旨をご理解の上、ご回答下さいますようお願い申し上げます。

ご記入にあたっての お願い

1 記入者

- ・幼稚園児又は保育園児（年中組）の保護者の方がご記入ください。

2 記入方法

- ・回答は、原則、番号に○印をつける方法です。あなたのお考えに最も近い番号に○印をつけてください。
- ・それぞれの設問で指定された数の○印をつけてください。
- ・自由記入の設問については、お手数ですが具体的な内容を文字でご記入ください。
- ・回答後に、記入もれや記入ミスがないようご確認ください。

3 提出

- ・ご記入が終わりましたら

**10月2日（金）までに幼稚園・保育園の担任の先生へ
ご提出下さい。**

4 お問い合わせ

- ・本調査について、不明な点やご質問などがありましたら、下記までご連絡ください。

みなかみ町役場子育て健康課

TEL 62-2527（ダイヤルイン）

◎「食育」とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選ぶ力を身につけ、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。

はじめに、あなた自身(保護者の方)とご家族についておたずねします。



問1 あなた(保護者)の性別をお答えください。(〇は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

問2 あなたの年齢を教えてください。(〇は1つ)

- | | | | | |
|------|------|------|------|-------|
| 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳以上 |
|------|------|------|------|-------|

問3 お子様と一緒に住んでいる方全員に〇印をつけてください。

(お子様からみた続柄でお答えください)

- | | | |
|------|-------|---------|
| 1. 父 | 3. 祖父 | 5. 兄弟姉妹 |
| 2. 母 | 4. 祖母 | 6. その他 |

問4 主にお子様の食事作りは誰がしていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|------|-------|---------|
| 1. 父 | 3. 祖父 | 5. 兄弟姉妹 |
| 2. 母 | 4. 祖母 | 6. その他 |

問5 あなた(保護者)は食事作りが楽しいですか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 楽しい | 4. 苦痛を感じる |
| 2. 楽しくはないが気にならない | 5. 普段しないのでわからない |
| 3. あまり楽しくない | |

問6 あなた(保護者)は朝ご飯を食べますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 毎日食べる | 3. 週に3~4日食べない |
| 2. 週に1~2日食べない | 4. ほとんど食べない |

問7 「問6」で「2・3・4 食べない」と回答した方へお聞きします。朝ご飯を食べない理由は何ですか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 食べる時間がない | 4. 食べる習慣がない |
| 2. 作るのが面倒 | 5. ダイエットのために食べない |
| 3. 食欲がない | 6. その他 (_____) |

問8 あなた(保護者)は、野菜や海草類のおかずを食べますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 毎食食べる | 4. 週に3~5回くらい食べる |
| 2. 1日2食は食べる | 5. 週に1~2回くらい食べる |
| 3. 1日1食は食べる | 6. ほとんど食べない |

問9 「問8」で「2・3・4・5」と回答した方へお聞きします。野菜や海草類のおかずを食べないのは主にいつですか。(〇はいくつでも可)

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 1. 朝食 | 2. 昼食 | 3. 夕食 |
|-------|-------|-------|

お子様（年中組）の食生活についての質問にお答えください。



問10 今回の対象（年中組）のお子様の性別、身長、体重をご記入ください。

1. 男 2. 女

（最近、園ではかった値でお答え下さい）

身長： _____ c m

体重： _____ k g

問11 お子様は食事を誰と一緒に食べることが多いですか。（①、②それぞれ1つずつ数字に○印をつけてください）

	家族そろって	大人の誰かと 子ども	子どもだけ (兄妹・姉妹)	ひとり	その他
① 朝食	1	2	3	4	5
② 夕食	1	2	3	4	5

問12 お子様は朝ご飯を食べますか。（○は1つ）

1. 毎日食べる 3. 週に3～4日食べない
2. 週に1～2日食べない 4. ほとんど食べない

問13 「問10」で「2・3・4. 食べない」と回答した方へお聞きします。お子様が朝ご飯を食べない理由は何ですか。（○は1つ）

1. 食べさせる時間がないから 4. 食べなくても平気だから
2. 作るのが面倒だから 5. 子どもを太らせたくないから
3. 子どもの食欲がないから 6. その他（ _____ ）

問14 お子様は今日の朝ご飯は食べましたか。食べた方は、食べた物の番号をすべて選んで、○印をつけてください。

1. 食べなかった 9. 肉、魚、卵、納豆などのおかず
2. ごはん 10. 果物
3. みそ汁 11. お菓子
4. めん類 12. 牛乳
5. パン（食パン、ロールパンなど） 13. 乳製品（ヨーグルト、チーズなど）
6. サンドイッチなどの調理パン 14. ジュース、スポーツドリンクなど
7. 菓子パン（あんぱん、メロンパンなど） 15. お茶や水など甘くない飲み物
8. 野菜などのおかず 16. その他（ _____ ）

問15 お子様は、家庭や幼稚園・保育園でおやつを食べますか。（○は1つ）

1. 毎日2回以上食べる 3. 週に3～5日食べる 5. ほとんど食べない
2. 毎日1回食べる 4. 週に1～2日食べる

問16 家庭でおやつを食べる方は、よく食べたり、飲んだりするおやつは何ですか。
家庭でよく食べるものを3つ以内で選んで○印をつけてください。

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. ごはん、おにぎり | 8. アイスクリーム、氷菓子 |
| 2. めん類（カップめん類をふくむ） | 9. 牛乳、ヨーグルト、チーズなど |
| 3. パン（食パン、サドイチ、ルバーガ-など） | 10. 果物 |
| 4. 菓子パン（あんぱん、メロンパンなど） | 11. 手作りのおやつ |
| 5. おせんべい | 12. ジュース、スポーツドリンクなど |
| 6. スナック菓子 | 13. お茶や水など甘くない飲み物 |
| 7. あめ、チョコレート | 14. その他：（_____） |

問17 お子様は食事を楽しみにしていますか。（○は1つ）

- | | |
|-----------|---------------|
| 1. いつも楽しみ | 3. あまり楽しみではない |
| 2. 時々楽しみ | 4. 楽しみではない |



問18 お子様は食事の時に、家族と話をしますか。（○は1つ）

- | | | |
|---------|---------|------------|
| 1. よくする | 2. 時々する | 3. ほとんどしない |
|---------|---------|------------|

問19 お子様は食事の時にテレビを見ますか。（○は1つ）

- | | | |
|---------|-----------|--------|
| 1. 見ている | 2. 時々見ている | 3. 見ない |
|---------|-----------|--------|

問20 お子様は好き嫌いがありますか。（○は1つ）

- | | | |
|-------|---------|-----------------|
| 1. ない | 2. 少しある | 3. 嫌いなものがたくさんある |
|-------|---------|-----------------|

問21 「問20」で「2・3」と答えた方にお聞きします。お子様の嫌いな料理、または食品は何ですか。（3つ以内で具体的に記入）

（_____）（_____）（_____）

問22 お子様の好きな料理、または食品は何ですか。（3つ以内で具体的に記入）

（_____）（_____）（_____）

問23 お子様は**給食以外の食事**（朝食・夕食）で**野菜や海草類のおかず**を食べますか。
（○は1つ）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 毎食食べる | 4. 週に1～2回くらい食べる |
| 2. 1日1食は食べる | 5. ほとんど食べない |
| 3. 週に3～5回くらい食べる | |

問24 あなた（保護者）がお子様の食事のことで困っていることは何ですか。

当てはまる番号をすべて選んで、○をつけてください。

- | | | |
|-------------|----------------|----------|
| 1. 食べる量が少ない | 5. 食べ散らかす | 9. 好き嫌い |
| 2. 時間がかかる | 6. 自分で食べない | 10. 特にない |
| 3. ムラ食い | 7. 一つの食品のみを食べる | 11. その他 |
| 4. よくかまない | 8. 食卓で座ってられない | （_____） |

農産物、郷土料理についての質問です。



問25 「みなかみ町の農産物」と聞いて何が思い浮かびますか。(3つ以内で具体的に記入)
 () () ()

問26 「みなかみ町の郷土料理」と聞いて何が思い浮かびますか。(3つ以内で具体的に記入)
 () () ()

問27 食材を購入する基準は何ですか。(〇は2つ以内)

- | | | |
|---------|-------------|--------------|
| 1. 価格 | 4. 産地 | 7. 生産者・製造責任者 |
| 2. 新鮮さ | 5. 安心・安全 | 8. こだわらない |
| 3. おいしさ | 6. ブランド・知名度 | |

問28 食材を購入する際、産地はどの地域まで意識していますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-------------|----------|-----------|
| 1. みなかみ町産優先 | 3. 県内産優先 | 5. こだわらない |
| 2. 利根沼田産優先 | 4. 国内産優先 | |

問29 「地産地消」という言葉を聞いたことがありますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. 聞いたことがあり意味も知っている | 3. 聞いたことがない |
| 2. 聞いたことはあるが意味は知らない | |

「地産地消」とは、その地域でとれた食材を、その地域で消費することです。



問30 「地産地消」に期待するのはどのようなことですか。(〇は2つ以内)

- | |
|----------------------------|
| 1. 生産地との距離が近いので、新鮮な食材が手に入る |
| 2. 安心・安全な食材が手に入る |
| 3. 生産者と消費者の交流を図ることができる |
| 4. 輸送コストがかからないので、食材が安く手に入る |
| 5. 地域の食文化や伝統文化への理解が深まる |
| 6. 輸送距離が短いので、環境にやさしい |
| 7. 地域の活性化につながる |
| 8. 特になし |

問31 「行事食」とは、どんなものがあるか知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 知っており、家でやっている | 3. あまり知らないので、できない |
| 2. 知っているが、やらない | 4. やろうと思わない |

「行事食」とは、郷土に伝わる、特別な行事の時の食事のことです。
 (例：正月のおせち料理・お雑煮・七草がゆ、お祝いの日のお赤飯など)

問32 「問31」で「1. 知っており、家でやっている」と答えた方は、**どのような行事食をしていますか。**下記のうち、やっている行事に○印をつけ、カッコ内に**食べている行事食**を記入してください。また、その他にある場合は、**その他**の欄に記入してください。

行事 (行事食)		行事 (行事食)		その他	
正月 ()	お盆 ()	行事	行事食		
小正月 ()	秋の彼岸 ()			[]	
節分 ()	十五夜 ()			[]	
初午 ()	十三夜 ()			[]	
ひな祭り ()	十日夜 ()			[]	
春の彼岸 ()	えびす講 ()			[]	
こどもの日 ()	冬至 ()			[]	
七夕 ()	大晦日 ()			[]	
土用丑の日 ()	お祝いの日 ()			[]	

食育に関する質問です。



問33 あなた(保護者)は「食育」に関心がありますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 関心がある | 3. どちらかといえば関心がない |
| 2. どちらかといえば関心がある | 4. 関心がない |

問34 「食育」はいつ頃から始めるのが良いと思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------------|----------|--------|-----------|
| 1. 妊娠中から | 4. 1～2歳頃 | 7. 中学生 | 10. わからない |
| 2. 生まれた時から | 5. 3～6歳頃 | 8. 高校生 | 11. 必要ない |
| 3. 離乳食が始まる頃 | 6. 小学生 | 9. 成人 | |

問35 あなたが「食育」について実践している事は何ですか。当てはまる番号をすべて選んで、○印をつけてください。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 栄養バランスのとれた食事をする | 7. 地域性や季節感のある食事をする |
| 2. 規則正しい食生活を送る | 8. 食品の安全性について知る |
| 3. 食べ残しや食品の廃棄を減らす | 9. 地場産の野菜・果物等を買う |
| 4. 家で野菜等を育てる | 10. 子どもと一緒に料理をする(教える) |
| 5. 家族と食事をする機会を増やす | 11. その他：(_____) |
| 6. 食事の正しいマナーを心がける | 12. 何もしていない |

問36 あなたは「食育」についてどんな取り組みをしたいと思いますか(望みますか)。当てはまる番号をすべて選んで、○印をつけてください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 家庭での食育 | 7. 店舗での地場産物コーナーの充実 |
| 2. 学校・保育所等における食育 | 8. 農業、収穫体験イベント等 |
| 3. 親子を対象とした食育料理教室等 | 9. 食文化、郷土料理について学ぶ機会 |
| 4. 大人を対象とした食生活改善教室 | 10. その他：(_____) |
| 5. 食事のマナー教室 | 11. 特になし |
| 6. 食品の安全確保のための対策 | |

問37 あなたは下に示したコマ型の「食事バランスガイド」を見たことがありますか。見たことがある人は、食事バランスガイドを参考に食事をしていますか。当てはまる番号に○印をつけてください。

- | | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------|-----------------|
| 1. 見たことがない | | | |
| 2. 見たことがある … | | | |
| <table border="1"> <tr> <td>1. 毎日参考にしている</td> </tr> <tr> <td>2. 時々参考にしている</td> </tr> <tr> <td>3. ほとんど参考にしていない</td> </tr> </table> | 1. 毎日参考にしている | 2. 時々参考にしている | 3. ほとんど参考にしていない |
| 1. 毎日参考にしている | | | |
| 2. 時々参考にしている | | | |
| 3. ほとんど参考にしていない | | | |



以上で質問は終わりです。
お忙しいところご協力いただきまして、ありがとうございました。

資料5 みなかみ町食育推進検討委員会設置要項

みなかみ町食育推進検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 みなかみ町食育推進計画を策定し、総合的かつ計画的に推進する上で必要な事項を協議・検討するため、みなかみ町食育推進検討委員会(以下「検討委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 食育の推進に関する計画の策定に関すること。
- (2) 食育推進計画の進捗管理及び評価に関すること。
- (3) その他食育に関する施策の推進に関すること。

(組織)

第3条 検討委員会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 食育の推進に関係する団体に所属する者
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) 前3号に掲げる者のほか、町長が必要と認める者

3 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 検討委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長及び副委員長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 検討委員会の会議は、委員長が召集し、その議長となる。

2 検討委員会は、委任状を含め委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 検討委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会)

第6条 検討委員会に具体的事項を調査検討及び協議するため部会を置くことができる。

2 部会の構成員は、委員長が別途定める。

3 部会の組織等については、第3条、第4条及び第5条の規定を準用する。

(関係者の出席等)

第7条 検討委員会及び部会は、委員長がその任務を遂行するために必要があると認めるときは、関係者に対し、出席を求めて意見又は説明を聞くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第8条 検討委員会の庶務は、子育て健康課において処理する。

(雑則)

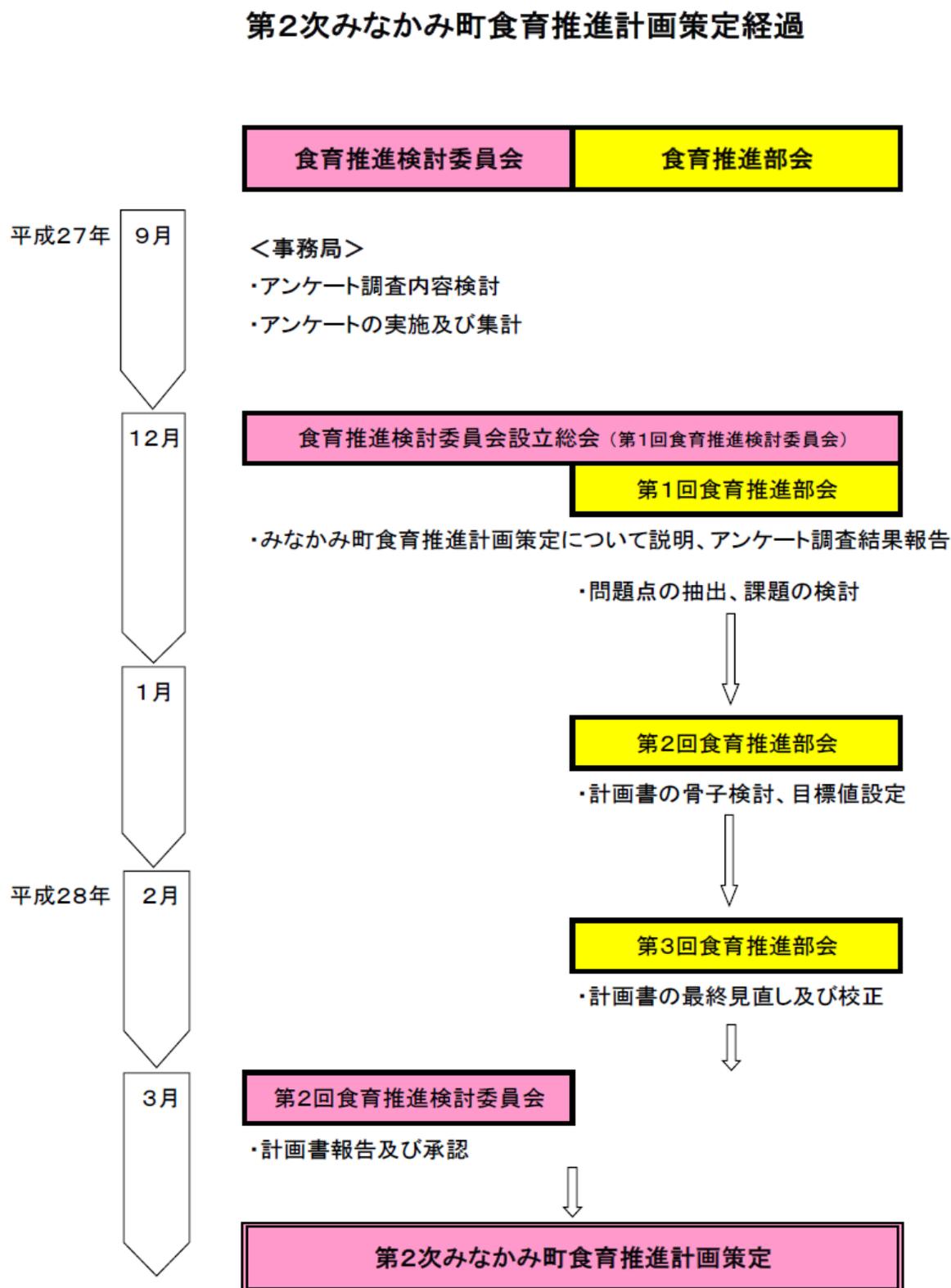
第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成21年10月5日から施行する。

2 この要綱の施行の日以後、最初に委嘱される委員の任期は、第3条の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

資料6 みなかみ町食育推進計画策定経過



資料7 みなかみ町食育推進検討委員名簿

食育推進検討委員会 委員名簿

No.	氏名	役職名	備考
1	桑原昇	みなかみ町校長会長	水上中学校長
2	堪山泰賢	水上わかくりこども園長	
3	上村真弓	にいはるこども園長	
4	坂西さと美	月夜野保育園長	
5	小柴千恵子	月夜野幼稚園長	
6	青木京子	みなかみ町食生活改善推進協議会長	
7	阿部孝吉	月夜野は一べすと農産物利用組合長	
8	飛田勝	みなかみ農村公園公社 課長	
9	新井麻希子	利根沼田保健福祉事務所保健係 主任	
10	岡田宏一	教育課長	
11	原澤志利	農政課長	

資料8 みなかみ町食育推進部会 部会員名簿

食育推進部会 部会員名簿

No.	氏名	役職名	備考
1	澤浦明子	古馬牧小学校養護教諭	
2	松山宏美	水上中学校養護教諭	
3	岡田恵子	新治小学校養護教諭	
4	本間ナヲミ	月夜野学校給食センター栄養教諭	
5	吉岡身奈	新治学校給食センター栄養教諭	
6	目黒貴子	水上わかくりこども園栄養士	
7	上中舞	にいはるこども園栄養士	
8	鈴木典子	月夜野保育園栄養士	
9	青木京子	みなかみ町食生活改善推進協議会長	
10	田村広江	みなかみ町保健師	
事務局			
1	高野一男	みなかみ町役場 子育て健康課	子育て健康課長
2	丸山浩文	みなかみ町役場 子育て健康課	健康推進グループリーダー
3	上原充	みなかみ町役場 子育て健康課	栄養士
4	木村裕子	みなかみ町役場 子育て健康課	栄養士
5	小倉正人	みなかみ町役場 教育委員会	指導主事



第2次みなかみ町食育推進計画

平成28年3月発行

発行 : みなかみ町 子育て健康課
住所 : 〒379-1393
群馬県利根郡みなかみ町後閑318番地
電話 : 0278-62-2527
FAX : 0278-62-6610